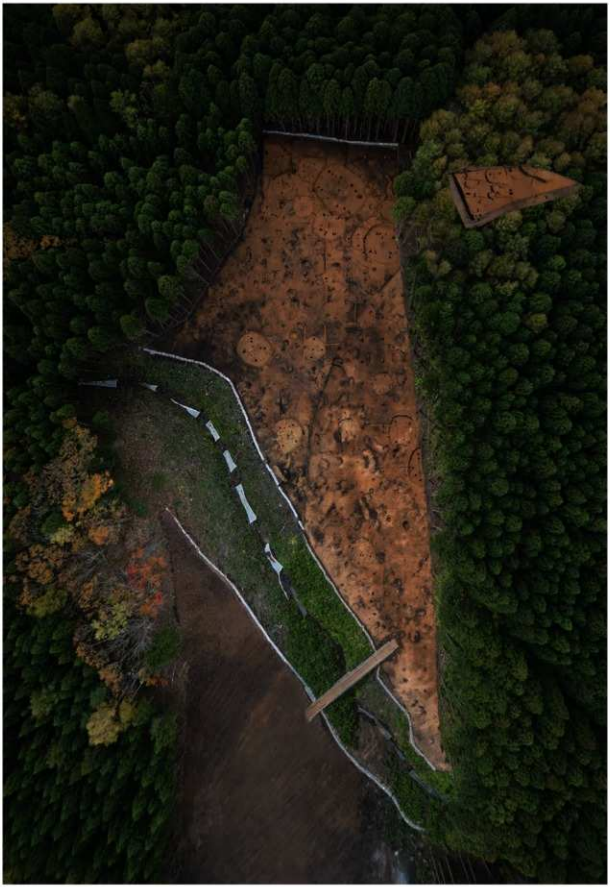
調 査 年 報 29

平 成 28 年 度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター



木古内町　幸連 4 遺跡 C・D 地区全景（平成 27・28 年度を合成）

口絵 2

木古内町　札苅 7 遺跡　土器集中 1

木古内町　札苅 7 遺跡　土器集中 2

根室市　温根沼 3 遺跡　調査区遠景

根室市　温根沼 3 遺跡　礫集中 1 検出状況

根室市　別当賀一番沢川遺跡　調査状況

千歳市　根志越５遺跡　枝材集中　ⅢBC－12

目　次

口絵
目次
北海道史略年表
平成28年度の調査
1　調査の概要 …… 1
2　調査遺跡
千歳市根志越５遺跡 …… 4
厚真町オニキシベ３遺跡 …… 10
厚真町上幌内４遺跡 …… 14
厚真町上幌内５遺跡 …… 16
厚真町オコッコ１遺跡 …… 20
厚真町豊沢５遺跡 …… 22
厚真町幌内７遺跡 …… 23
厚真町厚幌２遺跡 …… 24
厚真町富里１遺跡 …… 26
知内町湯の里２遺跡 …… 30
木古内町札苅７遺跡 …… 34
木古内町幸連４遺跡 …… 38
木古内町幸連５遺跡 …… 42
木古内町泉沢６遺跡 …… 44
木古内町釜谷10遺跡 …… 46
根室市別当賀一番沢川遺跡 …… 50
根室市温根沼３遺跡 …… 54
根室市幌茂尻１遺跡 …… 58
下川町上名寄８遺跡 …… 60
新得町屈足17遺跡 …… 62
3　現地研修会の報告 …… 66
4　協力活動及び研修 …… 70
5　平成28年度刊行報告書 …… 72
6　組織・機構 …… 73
7　職員 …… 74

北海道史略年表

本州の時代区分	年代（西暦）	北海道の時代区分	平成28年度調査遺跡の主な時期
明治～平成	A. D. 1900	（近 代・現 代）	
江戸時代		近世 アイヌ文化期	根志越５ 別当賀一番沢川
室町時代		中世 アイヌ文化期	富里１ 上幌内４
鎌倉時代	A. D. 1200		
平安時代		擦文文化期	幌茂尻１ 富里１
奈良時代	A. D. 800	オホーツク文化期	温根沼３
古墳時代		オホーツク文化期	富里１
弥生時代	A. D. 300	続縄文時代	別当賀一番沢川
縄文時代 晩期	B. C. 300	縄文時代 晩期	富里１ 幌内７ 豊沢５ 札苅７ 別当賀一番沢川
縄文時代 後期	B. C. 1000	縄文時代 後期	上幌内 ４ オニキシベ３ 豊沢５ 札苅７ 幸連４ 泉沢６ 釜谷10 屈足17
縄文時代 中期	B. C. 2000	縄文時代 中期	上幌内５ 幸連４ 釜谷10 別当賀一番沢川 根志越５
縄文時代 前期	B. C. 3000	縄文時代 前期	厚幌２ 富里１ 幸連４ 湯の里２ オコッコ １ 幸連５
縄文時代 早期	B. C. 4000	縄文時代 早期	オニキシベ３ 上幌内４ 富里１ 温根沼３ 上名寄８ 屈足17
縄文時代 草創期	B. C. 7000	縄文時代 草創期	
旧石器時代	B. C. 13000 B. C. 20000 B. C. 30000	旧石器時代	根志越５

平成28年度の調査

1　調査の概要

今年度は、道内７市町に所在する20遺跡で発掘調査を実施した。このうち11遺跡は以前からの継続調査である。発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局の各開発建設部が実施する道路工事や整備に伴う調査が２市町８遺跡、同じく遊水地整備が１市１遺跡、土地改良事業（導水路）が１町４遺跡、河川改修１町１遺跡。北海道胆振総合振興局建設管理部が行う厚幌ダム建設に伴う調査が１町３遺跡、十勝総合振興局が行う農道整備に伴う調査が１町１遺跡、鉄道・運輸機構の北海道新幹線関係１町１遺跡である。いずれも整理作業を進行させており、整理作業のみを行った事業は他の工事原因も含め、数年来から今年度にかけての18遺跡の継続整理作業である。

以下、調査成果を時期順に略述する。各遺跡の特徴的な事項を示すようにし、時期の重複する遺構は始まりの時期あるいは主体とみられる時期を目安に記述する。なお、遺構などの（　）数字は員数であるが、時期や性格の認定作業にまで及んでいないものがあり、員数が確定していないものも多い。

旧石器時代　千歳市根志越５遺跡で細石刃、彫器削片、細石刃核が出土している。

縄文時代　早期　根室市温根沼３遺跡で土坑墓（1）、焼土（6）や遺物集中を検出。土器は東釧路Ⅱ・Ⅲ式が主体で、石刃鏃も１点出土している。新得町屈足17遺跡では暁式や大楽毛式とみられる土器や付随する石器が出土している。

厚真町富里１遺跡では東釧路Ⅳ式期以降の竪穴住居跡（1）や土坑を検出した。同遺跡では、これ以降すべての時期の遺物が出土している。厚真町オニキシベ３遺跡、上幌内４遺跡では少量の遺物が出土している。時期確定はできないが、上名寄８遺跡で黒曜石や珪化岩の石器や剥片・石核が出土している。

前期　木古内町では、幸連４遺跡で昨年度に続いて、前期後半円筒下層式期の竪穴住居跡（16）や土坑・廃棄場等からなる集落跡を検出した。幸連５遺跡では厚さ２ｍに及ぶ盛土遺構を検出している。円筒下層式から中期ノダップⅡ式に及ぶ時期のもので、多量の遺物が出土した。工事を先行させるための小範囲の調査で、本格的調査は来年度に継続する。33年前に調査した知内町湯の里２遺跡の続きの範囲でも、円筒下層式期の竪穴住居跡（1）と石囲炉（1）を検出した。

厚真町では、厚幌２遺跡で後半期の「捨て場」遺構を調査した。礫や骨片が多く土器は少ない。周囲には同時期の土坑、焼土、土器や剥片の集中などもみられた。富里１遺跡では縄文式期の土坑墓や土坑を数基検出した。オコッコ１遺跡でも前半期の尖底土器が多く出土した。

屈足17遺跡では小沢頭周囲にシカ足跡と黒曜石剥片がみられ、狩場か水場と考えられる。

中期　根室市別当賀一番沢川遺跡では、規模や形状が多様で重複もある北筒式期の竪穴住居跡（39）を検出。平地住居跡とみられるものもあり、焼失痕跡のある遺構も多い。同期から後期初頭とみられる土坑群や焼土なども検出した。

千歳市根志越５遺跡では、竪穴住居跡（1）と墓坑を含む土坑（5）を検出した。出土する遺物は早期から中期である。オニキシベ３遺跡や木古内町釜谷10遺跡、幸連４遺跡でも少量の遺物が出土した。

中期から後期にかけて掘られたとみられるＴピットは、厚真町上幌内５遺跡で300基以上を検出した。溝状が主体で、長さ３ｍを超える大型のものもあり、列をなす群もある。上幌内４遺跡（1）、厚幌２遺跡（2）、オニキシベ３遺跡（2）でもＴピットを検出した。

後期　木古内町では、幸連４遺跡Ｂ地区で前半期の竪穴住居跡（2）があり、沢を挟んだＣ地区にも広がりがある。釜谷10遺跡でも前半期の竪穴住居跡（2）があり、フラスコ状や小型などの土坑（16）、

焼土（28）も検出した。土坑や焼土は中期後半から続くものとみられる。泉沢６遺跡では土坑（1）、焼土（8、内１は石囲炉）を検出した。

厚真町ではオニキシベ３遺跡で、余市式・タプコプ式期を主体とした前葉の竪穴住居跡（8）を調査した。土坑（11）や石囲炉（5）、遺物集中などとともに一昨年度から続けて調査していた当該期の集落を形成している。同期の竪穴住居跡は豊沢５遺跡(1)でも検出できた。上幌内４遺跡では当期の土器・礫の集中も確認した。

屈足17遺跡では小沢頭周辺で北筒式期の石器ブロック（1）を検出した。根室市では幌茂尻１遺跡や別当賀一番沢川遺跡で少量の遺物が出土している。

晩期　木古内町札苅７遺跡では、前～中葉の多量の土器片が集積した「土器集中」(3）を検出した。細片が多いが、個体が潰れた状態で検出されるものも多い。石器の出土は少なく、少数だが土製品・石製品も確認された。

厚真町では、富里１遺跡で樽前Ｃテフラを挟んで形状の類似した土坑（5）、幌内７遺跡で土坑（2）、豊沢５遺跡で土器集中（1）を検出した。

別当賀一番沢川遺跡で土坑墓（1）を検出した。幌茂尻１遺跡と屈足17遺跡では少量の遺物が出土している。

続縄文時代　富里１遺跡で北大Ｉ式期の土器集中（1)、別当賀一番沢川遺跡で土器集中（1）を検出した。温根沼３遺跡では少量の遺物が出土している。

オホーツク文化期　温根沼３遺跡で貼付文のオホーツク式土器が出土しており、土坑（8）や焼土、礫集中を検出した。遺構は擦文文化期の可能性もある。

擦文文化期　幌茂尻１遺跡で、竈がない竪穴住居跡(3)を調査。2軒から地床炉と棒状礫集中を検出した。刀子１点が出土している。温根沼３遺跡では少量の土器や鉄鍋片が出土している。

富里１遺跡で平地住居跡とみられる炉跡や柱穴を検出。他に土器集中（1）も検出した。

アイヌ文化期　厚真町では上幌内４遺跡と富里１遺跡で刀などの鉄製品が出土し、前者では焼土（1)、礫集中（2)、後者では棒状礫の集中も検出できた。別当賀一番沢川遺跡でも鉄製品の出土があった。

千歳市根志越５遺跡では、昨年に続き河川跡の泥炭層から枝材集中（6）と立杭、杭跡、礫集中を検出した。枝材集中は１ｍ未満の均一な長さの真っ直ぐな細枝のまとまりで、大礫を載せているものが多く、左右中の３列で編みまとめられた簾状の製品である。魚介類の漁具とみられる。

近世・近代　今年度の調査遺跡では確認できなかった。

整理作業・報告書作成　北海道開発局事業のうち道央圏連絡道路関係では、レブントシ川左岸遺跡などの長沼町域分の報告書を刊行。イカベツ２遺跡などの千歳市域分は継続整理となる。函館–江差道関係では北斗市館野６遺跡補償道路部分と木古内町大平、大平４、亀川５、泉沢５の各遺跡の報告書を刊行。札苅７、幸連４、泉沢６、札苅８、幸連３他の遺跡は継続調査及び整理中である。厚幌導水路関係では調査を終えた遺跡のうち、厚真町厚幌１、幌内６、幌内７遺跡の報告書を刊行する。厚幌２遺跡、オコッコ１遺跡は継続調査及び整理中である。根室地区の道路関係事業のうち、幌茂尻１遺跡の報告書を刊行する。

北海道新幹線関連では福島町館崎遺跡と木古内町大平遺跡「盛土・包含層編」、今年度調査の知内町湯の里２遺跡の報告書を刊行し、同事業関連は終了となる。

厚幌ダム事業では、上幌内３遺跡の報告書を刊行。継続調査・整理の上幌内４、上幌内５、オニキシベ３遺跡の整理作業を展開している。ほか北海道関係では、今年度調査した厚真町オコッコ１遺跡と新得町屈足17遺跡の報告書を刊行する。

平成28年度　発掘調査遺跡および掲載遺跡の位置図

平成28年度　事業別発掘調査・整理作業遺跡一覧

事業委託者		原因工事	遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	現地調査年
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	道央圏連絡道路泉郷道路工事	トプシナイ2	千歳市	整理作業	平成26・27年度調査
			イカベツ2	千歳市	整理作業	平成26・27年度調査
			レプントン川左岸	長沼町	整理作業	平成26年度調査
			レプントン川右岸	長沼町	整理作業	平成26年度調査
			幌内K遺跡	長沼町	整理作業	平成26年度調査
			南九号線遺跡	長沼町	整理作業	平成27年度調査
	函館開発建設部	根志越地区遊水地工事用地内	根志越5	千歳市	2,120	平成26年度から継続
		高規格幹線道路函館江差自動車道建設工事	館野6	北斗市	整理作業	平成20・21年度調査
			大平4	木古内町	整理作業	平成24～26年度調査
			大平	木古内町	整理作業	平成25年度調査
			札苅8	木古内町	整理作業	平成26年度調査
			亀川5	木古内町	整理作業	平成26年度調査
			泉沢5	木古内町	整理作業	平成26年度調査
			幸連3	木古内町	整理作業	平成27年度調査
			札苅7	木古内町	1,809	平成25年度から継続
			泉沢6	木古内町	1,411	継続
			幸連4	木古内町	2,277	継続
			幸連5	木古内町	61	新規・継続
			釜谷10	木古内町	1,430	新規
	旭川開発建設部	名寄川河道貯削工事	上名寄8	下川町	800	継続
	室蘭開発建設部	勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内	富里1	厚真町	1,351	新規
			豊沢5	厚真町	729	新規
			幌内7	厚真町	189	継続
			厚幌2	厚真町	1,083	継続
			幌内6	厚真町	整理作業	平成27年度調査
			オコッコ1	厚真町	整理作業	平成27年度調査
			厚幌1	厚真町	整理作業	平成25・27年度調査
	釧路開発建設部	根室防雪事業改良等工事	別当賀一番沢川	根室市	2,000	継続
		根室道路事業	幌茂沢1	根室市	2,200	新規
			温根沼3	根室市	2,610	新規
鉄道建設・運輸施設整備支援機構	鉄道建設本部 北海道新幹線建設本部	北海道新幹線建設事業	館崎	福島町	整理作業	平成21～23年度調査
			大平	木古内町	整理作業	平成21～23年度調査
			湯の里2	知内町	84	新規
北海道	胆振総合振興局	厚幌ダム建設事業	上幌内3	厚真町	整理作業	平成25・26年度調査
			上幌内4	厚真町	300	平成26年度から継続
			上幌内5	厚真町	9,550	平成25・27年度から継続
			オニキシベ3	厚真町	6,380	平成26年度から継続
		厚真川改修工事	オコッコ1	厚真町	260	新規
	十勝総合振興局	農業特対	居辺17	新得町	900	新規
			合計		37,744 ㎡	

2　調査遺跡

千歳市　根志越５遺跡（A-03-291）

事 業 名：根志越地区遊水地工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所 在 地：千歳市根志越2476-1，2

調査面積：2,120㎡

調査期間：平成28年８月１日～10月28日

調 査 員：鈴木　信、菊池慈人、福井淳一

調査の概要

遺跡はJR千歳駅から北北東へ約４km、千歳川右岸に位置する。遺跡名の「根志越」は、アイヌ語で「nesho-us-i：オニグルミの木・群生する・ところ」と解されている。現地表の標高は約８mであり、昭和30年代の長都沼干拓工事（「長都新水路工事」）以前は長都原野と呼ばれる未整の泥炭地であった。約1.1km南南西にはトメト川３遺跡（縄文時代からアイヌ文化期）がある。

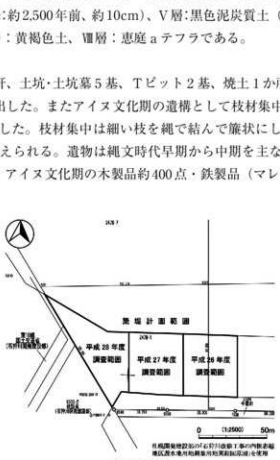
調査に至る経緯は次のとおりである。千歳川流域の洪水対策事業としての遊水地の建設計画が立案され、平成22年から埋蔵文化財保護のための事前協議が北海道教育委員会と札幌開発建設部とでなされた。北海道教育委員会により平成23年から範囲確認調査が始まった。平成25年の試掘調査では樽前ｃ降下軽石層の下位から縄文時代中期の土器・石器が得られ、築堤にあたる範囲は記録保存が必要となった。本年度の発掘調査は三年計画の最終年度である。

層序は、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：樽前ａテフラ（Ta-a：1739年、約30cm）、Ⅲ１層：灰白色シルト質土（約15cm、台地上の第一黒色土相当で近世アイヌ文化期の水性堆積層）、Ⅲ２層：褐色泥炭質土（約30cm、台地上の第一黒色土相当）、Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ta-c：約2,500年前、約10cm）、Ⅴ層：黒色泥炭質土（約70cm、台地上の第二黒色土相当）、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色土、Ⅷ層：恵庭ａテフラである。

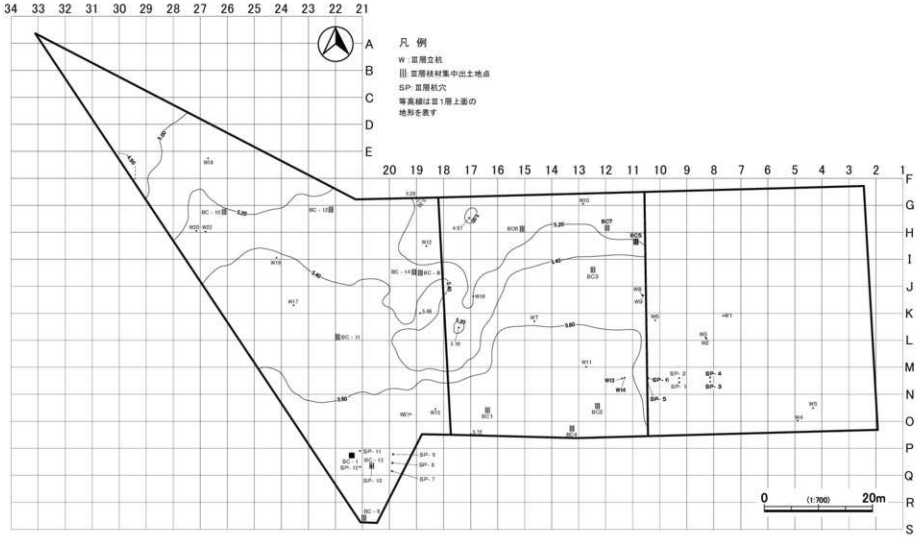
遺構と遺物

遺構は縄文時代中期を主な時期とする竪穴住居跡１軒、土坑・土坑墓５基、Ｔピット２基、焼土１か所、土器集中３か所、礫集中４か所、遺物集中１か所を検出した。またアイヌ文化期の遺構として枝材集中６か所、立杭５か所、杭穴６か所、礫集中１か所を検出した。枝材集中は細い枝を縄で結んで簾状にして上に石が置かれており、魚介類を捕るための漁具と考えられる。遺物は縄文時代早期から中期を主な時期とする土器約5,900点・石器約3,600点・木製品２点、アイヌ文化期の木製品約400点・鉄製品（マレク）１点がある。また、旧石器が数点出土している。

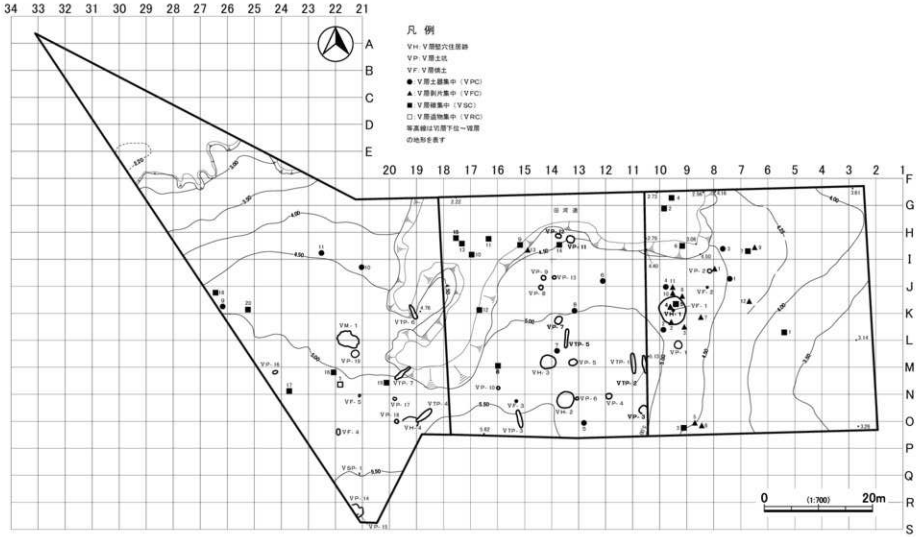
遺跡位置図



調査範囲



Ⅲ層遺構位置図


凡例
VH：V層竪穴住居跡
VP：V層土坑
VF：V層焼土
●：V層土器集中（VPC）
▲：V層剥片集中（VFC）
■：V層礫集中（VSC）
□：V層遺物集中（VRC）
等高線は切土下位～V層の地形を表す
0
(1:700)
20m

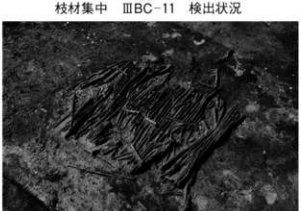
V層遺構位置図

Ⅲ１層（アイヌ文化期）調査状況

マレッ出土状況

枝材集中　ⅢBC－11　検出状況

立杭　ⅢW－17　検出状況



枝材集中　ⅢBC－13　検出状況

枝材集中　ⅢBC－10　検出状況

枝材集中　ⅢBC－14　検出状況

V層（縄文時代）調査状況

竪穴住居跡　VH－4　検出状況

低位部遺物出土状況

低位部土層断面

厚真町　オニキシベ３遺跡（J-13-78）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道胆振総合振興局
所 在 地：勇払郡厚真町字幌内438－19ほか
調査面積：6,380㎡
調査期間：平成28年５月12日～10月28日
調 査 員：鎌田　望、愛場和人、末光正卓、佐藤　剛、熊谷仁志

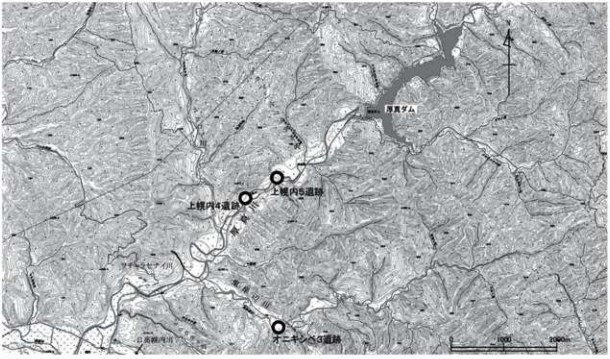
調査の概要

遺跡は厚真町の市街地から北東へ約12km、厚真川上流域の支流、鬼岸辺川右岸の段丘上に立地する。調査は平成26年度から３年目で、今年度で終了した。総調査面積は26,030㎡である。調査区は北から A・B・C地区に区分し、平成26・27年度はB・C地区、今年度はA地区を調査した。A地区は町道の鬼岸辺沢線から北側部分にあたり、標高は78～84ｍで、西側から東側へ緩やかに傾斜する地形である。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ（Ta-b：1667年）、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ta-c：約2,500年前）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラ（Ta-d：約7,000年前）である。調査区北西側ではⅤ層中に樽前ｄテフラの二次堆積層が認められた。調査はⅤ層について行った。

遺構と遺物

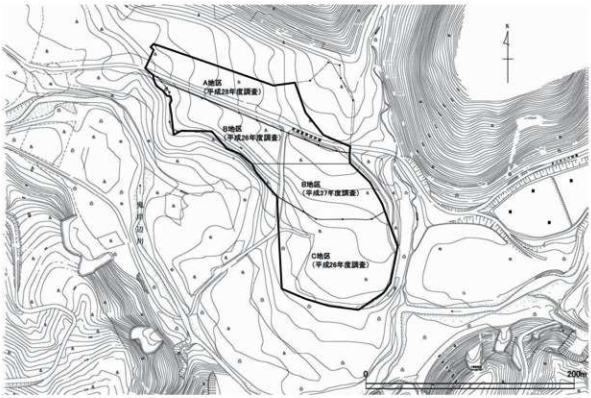
今年度の遺構は、竪穴住居跡８軒、土坑11基、Ｔピット２基、石囲炉５か所、焼土５か所、土器集中２か所、フレイク集中１か所、礫集中１か所、炭化物集中１か所である。遺構の時期は縄文時代中期末から後期初頭が主体である。竪穴住居跡、土坑、土器集中、炭化物集中などは調査区中央の標高約82～84ｍの範囲にまとまって分布し、石囲炉はそれらとは離れて調査区の東側と西側にみられる。竪穴住居跡は、円形で径３ｍ前後の小型のものと、楕円形で長径約５～９ｍのものがある。多くが先端部ピットがあり、掘り上げ土がみられるものもある。またH-14・15は重複し、H-14が新しい。炉は地床炉が多いが、H-15は余市式土器を用いた土器片囲炉である。土坑は概ね楕円形で、礫石器や礫が出土する。



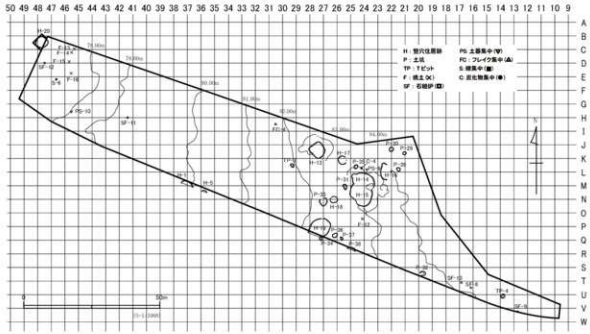
厚幌ダム用地内の遺跡位置図　（国土地理院電子地形図 25000「幌内・厚真川上流」を縮小して合成・加筆）

遺物は、土器約21,000点、石器等約26,900点が出土した。土器は縄文時代後期初頭の余市式土器、タプコプ式土器が主体で、他に縄文時代早期、中期、晩期の土器がある。

石器の器種は剥片石器では石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、礫石器では磨製石斧、たたき石、砥石、台石・石皿などがある。礫石器や礫は砂岩製がほとんどで、被熱しているものが多い。



年度別調査区と周辺の地形（『平成24年度 厚真ダム建設工事 現状平面図』を縮小して合成・加筆）



A地区遺構位置図

調査状況

竪穴住居跡　H－14・15（縄文時代中期から後期）

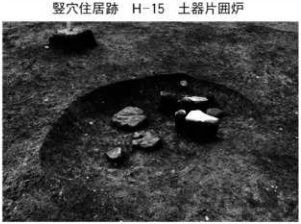
竪穴住居跡　H－13（縄文時代中期から後期）

竪穴住居跡　H－17（縄文時代中期から後期）

竪穴住居跡　H－20（縄文時代中期から後期）

竪穴住居跡　H－15　土器片囲炉

土坑　P－29（縄文時代中期から後期）



土坑　P－6（縄文時代中期から後期）

石囲炉　SF－9（縄文時代中期から後期）

石槍ナイフ出土状況

厚真町　上幌内４遺跡（J-13-124）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内368－ほか

調査面積：300㎡

調査期間：平成28年５月12日～10月28日

調 査 員：鎌田　望、愛場和人、末光正章、佐藤　剛、熊谷仁志

調査の概要

遺跡は厚真町の市街地から北東へ約12km、厚真川の左岸に位置する。調査区は最高標高73ｍの台地平坦部と厚真川に面する北西側の斜面部で、南東側には湧水があり、調査区際を南西方向へと流れている。発掘調査は平成26年度から始まり、３年目の本年度に完了した。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ（Ta-b：1667年）、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ta-c：約2,500年前）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラ（Ta-d：約7,000年前）である。

過年度は台地上平坦部のⅤ層を調査し、縄文時代早期、中期、後期の遺構・遺物を確認した。本年度は、南西側の台地の一部と北西側斜面部の上下位の黒色土層（Ⅲ・Ⅴ層）を調査した。

遺構と遺物

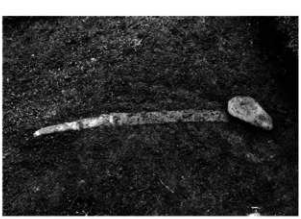
Ⅲ層では、焼土１か所、礫集中２か所、炭化物集中２か所が検出され、小刀、刀子、鉤状、棒状の鉄製品や礫が出土した。これらはアイヌ文化期と考えられる。

Ⅴ層では、Ｔピット１基とこれの構築に伴うと考えられる掘り上げ土を斜面で確認した。縄文時代早期と後期の土器集中や礫集中も検出した。

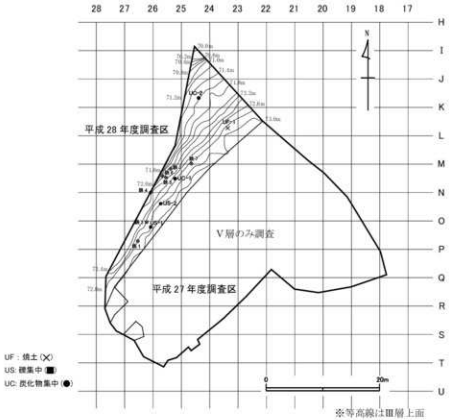
遺物は、土器約2,180点、石器等約5,180点が出土した。土器は縄文時代早期･中期･後期前半のもので、剥片石器は石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ等、礫石器は磨製石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、砥石、台石・石皿がある。

昨年度の成果も踏まえて本遺跡の特徴を述べる。遺構は、縄文時代後期と考えられる竪穴住居跡がみつかり、Ｔピットは狭い台地平坦部から斜面の一部に31基が分布する。溝状と楕円あるいは円形のものがみられ、重複関係（状況）から後者が新しいと判断される。また、土器集中は、縄文時代早期後半の東釧路Ⅳ式、同中期前半の円筒土器上層ａ式があり、同後期の手稲式の注口土器も出土した。石器は、据え置いて使用したと推定される大型の台石が出土した。

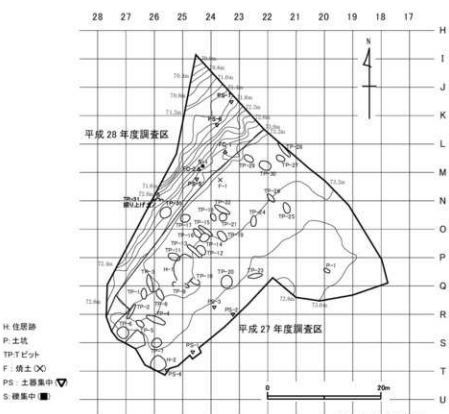
Ⅲ層上面の状況



小刀出土状況



Ⅲ層遺構位置図



V層遺構位置図

厚真町　上幌内５遺跡（J-13-125）

事 業 名：厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：北海道胆振総合振興局

所 在 地：勇払郡厚真町字幌内350ほか

調査面積：9,550㎡

調査期間：平成28年５月12日～10月28日

調 査 員：鎌田　望、愛場和人、末光正章、佐藤　剛、熊谷仁志

調査の概要

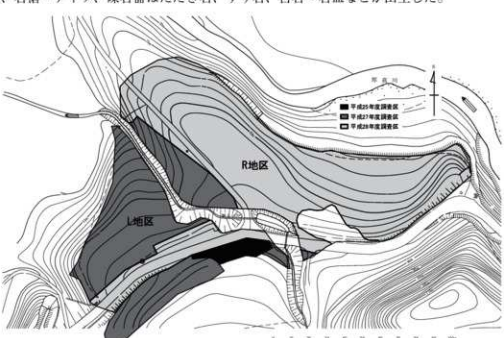
遺跡は厚真町の市街地から北東へ約13km、厚真川左岸の標高約75～84mの台地に立地する。調査区北側は厚真川に面する崖である。調査区中央には無名の沢が流れ、これを挟んで東側の右岸をＲ地区、西側の左岸をＬ地区と区分した。調査は平成25・27年度に行い、三年目の今年度で完了した。総調査面積は約14,800㎡である。今年度はＲ地区のほか、Ｌ地区の細長い範囲を調査した。後者は道道の下位にあたり、この道路は北側に付け替えた。Ｒ地区は、黒色土層（Ⅴ層）が残存する部分（2,300㎡）について包含層調査も予定していたが、遺物が出土しなかったので、遺構確認調査とした。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ（Ta-b：1667年）、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ta-c：約2,500年前）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラ（Ta-d：約7,000年前）から構成される。Ｒ地区の沢近くでは灰色を呈する水成二次堆積の粘土層がみられた。

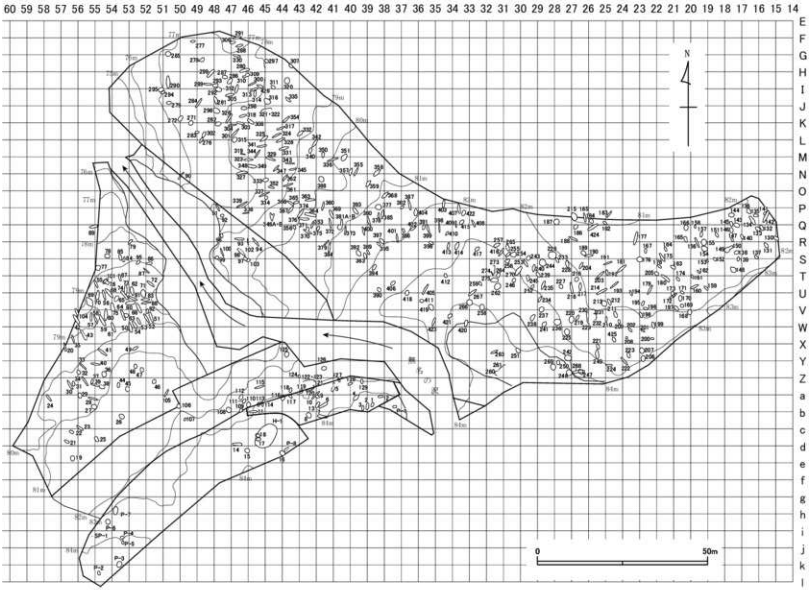
遺構と遺物

遺構は、300基を超えるＴピットを確認した。これらは調査区の全面に分布し、列をなすものもある。底面の平面形態は、おおまかに溝状・楕円形・円形に分けられ、溝状が最も多い。規模は長軸1.5ｍ前後が多く、最大規模のものは３ｍを超える。重複するものもあり、楕円形・円形が溝状よりも新しいと判断される。

遺物は、遺構の覆土から土器１点、石器83点が出土した。土器は縄文時代後期のものである。剥片石器は石鏃、石槍・ナイフ、礫石器はたたき石、すり石、台石・石皿などが出土した。



年度別調査区と周辺の地形

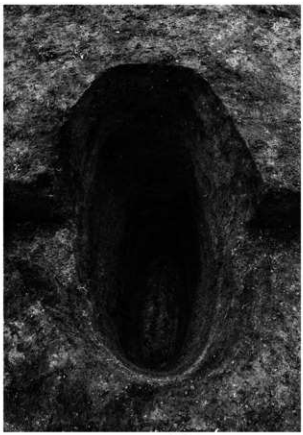


厚真町　上幌内５遺跡遺構位置図

調査区北側調査状況

調査区東側調査状況

TP-290　完掘



TP-283　完掘

TP-125　完掘

重複するTピット（TP-346）

厚真町　オコッコ１遺跡（J-13-107）

事　業　名：厚真川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
委　託　者：北海道胆振総合振興局
所　在　地：勇払郡厚真町字幌内942－4
調査面積：260㎡
調査期間：平成28年７月１日～８月５日
調　査　員：鎌田　望、佐藤　剛、熊谷仁志

調査の概要

遺跡は厚真町市街から北東へ約７km、厚真川の沖積平野の奥部にある厚真川とオコッコ沢川の合流点に位置し、標高55～60ｍの河岸段丘上に立地する。今年度の調査区は、昨年度調査区の北東側の標高48～55ｍの河岸段丘上と斜面である。基本土層はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ（Ta-b：1667年）、Ⅲ層：黒褐色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ta-c：約2,500年前）、Ⅴ層：黒褐色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラ（Ta-d：約7,000年前）である。

昨年度は厚幌導水路工事に伴い、国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部の委託により調査（2,912㎡）を行った。Ⅲ層では擦文文化期の平地住居４軒など、Ⅴ層からは縄文時代前期前半の盛土遺構２か所、竪穴住居跡６軒、土坑墓を含む土坑15基などを確認し、現在継続して整理中である。

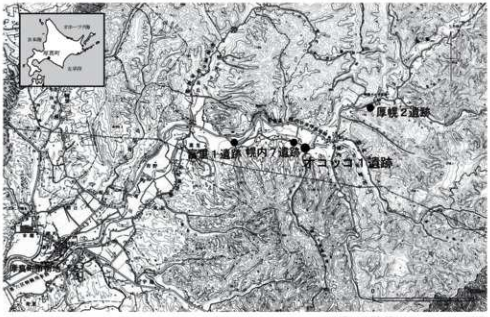
今年度は試掘結果により、Ⅴ層からⅦ層の調査を行った。

遺構と遺物

今年度は、遺構は検出されなかった。

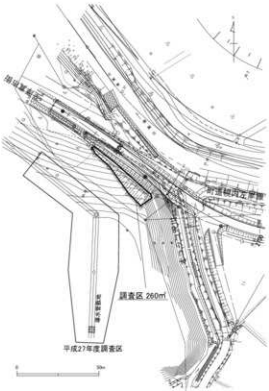
遺物は土器25点、石器98点、礫・礫片が計3,417点出土した。出土層位は、主にⅤ層の中位から下位にかけてである。

土器は縄文時代前期前半の縄文尖底土器が多く、他に後期初頭の余市式土器、後期中葉の手稲式、晩期中葉の美々３式が出土した。石器は片岩製の石斧が多く、他に黒曜石製の無茎三角鏃、スクレイパー、つまみ付きナイフ、たたき石、すり石などが出土した。

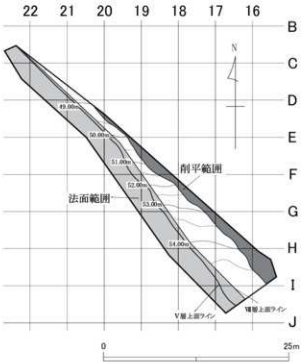


※厚真町上水道「厚真町全図5万分の1」を加工・編集

遺跡位置図



調査範囲と周辺の地形



調査区

調査状況

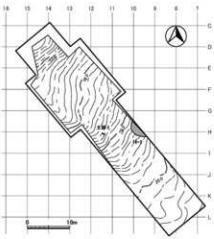
厚真町　豊沢5遺跡（J-13-109）

事 業 名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部
所 在 地：勇払郡厚真町字豊沢284－1
調査面積：729㎡
調査期間：平成28年7月14日～8月10日
調 査 員：村田　大、新家水奈、立田　理

調査区全景

調査の概要

遺跡は、厚真町の市街地から南へ約7㎞、標高約20ｍの当麻内川左岸に位置する。調査区は標高17～20ｍの平坦面から緩斜面となっている。基本層序はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：樽前ｂテフラ、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：樽前ｃテフラ、Ⅴ層：黒褐色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：樽前ｄテフラである。なお層序は富里1、厚幌2、幌内7遺跡とも概ね同様である。本遺跡はⅤ層が遺物包含層である。

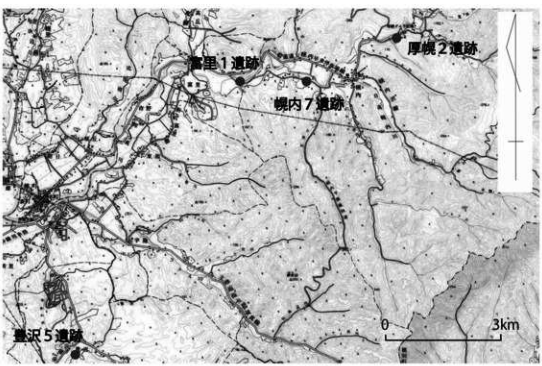


遺構位置図

遺構と遺物

検出された遺構は、縄文時代後期前半の竪穴住居跡1軒、縄文時代晩期後葉の土器集中1か所である。いずれも調査区中央の緩斜面に位置する。

出土遺物は土器155点、石器等92点である。土器は縄文時代晩期後葉の土器が111点、後期前半の余市式土器が43点である。石器は石鏃3点、石槍1点、スクレイパー1点、つまみ付きナイフが各1点、フレイク74点である。



厚幌導水路関連遺跡位置図　（厚真町役場作成・1：50000厚真町全図を利用した）

厚真町（あつま）　幌内（ほろない）７遺跡（J-13-103）

事　業　名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委　託　者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部
所　在　地：勇払郡厚真町字幌内938－１外
調査面積：189㎡
調査期間：平成28年９月12日～10月７日
調　査　員：村田　大、新家水奈、立田　理

調査の概要

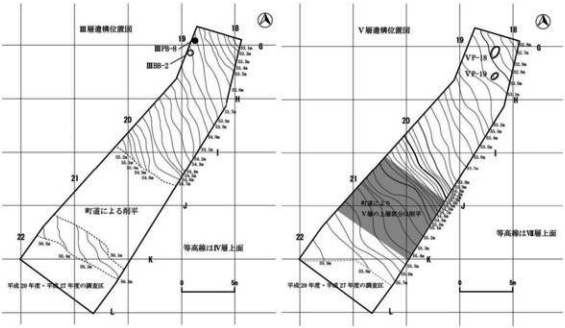
遺跡は厚真町の市街地から北東へ約7.5km、厚真川左岸の河岸段丘縁辺部に位置し、標高は51～56mである。現況は町道の幌内左岸線と針葉樹の植林地である。調査区内の地形は、厚真川に向かう北東方向に傾斜する斜面である。調査範囲は、導水路本管から分岐する用水路部分に相当する。隣接する本管部分は、平成20年に厚真町教育委員会が952㎡の調査を行っており、アイヌ文化期の平地住居跡などのほか、擦文文化期、続縄文時代、縄文時代の遺構、遺物が発見されている。また、平成27年度に当センターが492㎡の調査を実施し、土坑、Ｔピット、焼土を検出し、主に縄文時代前期と晩期の土器、石器類が出土している。

Ⅳ層：樽前ｃテフラ（Ta-c：約2,500年前）を挟み、Ⅲ層とⅤ層の黒色土が遺物包含層である。

調査状況

遺構と遺物

Ⅲ層から縄文時代晩期の土器集中が１か所、鹿の焼骨の集中が１か所見つかった。Ⅴ層からは土坑２基を検出した。遺物は1,646点出土し、縄文時代晩期の土器片と石器類が多い。



遺構位置図

厚真町　厚幌２遺跡（J-13-88）

事 業 名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部
所 在 地：勇払郡厚真町字幌内487－１
調査面積：1,083㎡
調査期間：平成28年５月９日～７月28日
調 査 員：村田　大、新家水奈、立田　理

調査の概要

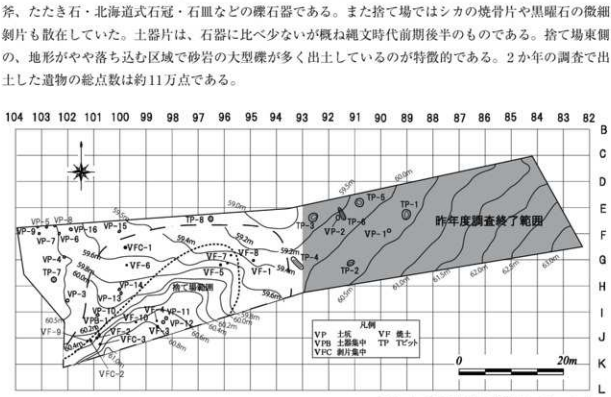
遺跡は、厚真町の市街地から北東へ約10km、キウキチ沢川の東側台地上に位置し、標高は60ｍ前後である。基本土層は豊沢５遺跡、富里１遺跡、幌内７遺跡とほぼ同様であるが、調査区東側に縄文時代前期以前の大規模な土石流によると思われる樽前ｄテフラ（Ta-d：約7,000年前）の再堆積層がみられる。昨年度は、Ⅲ層と93ラインより東側のⅤ層の調査を終え、今年度は、昨年確認した西側の縄文時代前期の捨て場と思われる遺物の集中域を中心に調査を行った。

遺構と遺物

縄文時代前期の捨て場は、馬の背様の地形に遺物が多く集中し、範囲は長軸が300ｍ以上、短軸は広いところで100ｍである。捨て場は調査区外の南側に続いていると思われる。遺物を含む黒色土の層厚は30cm前後である。

このほか今年度新たに見つかった遺構は、土坑（ＶＰ）14基、焼土（ＶＦ）10か所、土器集中（ＶＰＢ）１か所、剥片集中（ＶＦＣ）３か所、Ｔピット（ＴＰ）２基である。昨年度調査したＶ層の遺構と合わせると、土坑は16基、Ｔピットは８基である。

主な遺物は、焼けた砂岩礫片のほか、黒曜石製の石槍、頁岩製のつまみ付きナイフ、緑色片岩製の石斧、たたき石・北海道式石冠・石皿などの礫石器である。また捨て場ではシカの焼骨片や黒曜石の微細剥片も散在していた。土器片は、石器に比べ少ないが概ね縄文時代前期後半のものである。捨て場東側の、地形がやや落ち込む区域で砂岩の大型礫が多く出土しているのが特徴的である。２か年の調査で出土した遺物の総点数は約11万点である。



Ⅴ層出土の遺構位置図　　内の等高線は捨て場上面、20cmコンター他はⅤ層上面地形のもの

捨て場　検出状況

捨て場　遺物出土状況

厚真町　富里１遺跡（J-13-37）

事　業　名：勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委　託　者：国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部
所　在　地：勇払郡厚真町字富里42－１
調査面積：1,551㎡
調査期間：平成28年８月30日～10月28日
調　査　員：村田　大、新家水奈、立田　理

調査の概要

遺跡は、厚真町市街地から北東に約６km、厚真川の右岸、南に張り出す舌状台地の先端部に位置する。調査区はこの先端部を取り囲むように設定されている。調査区内の地形は台地崖際の平坦面であったが、表土を除去すると埋没した沢が一筋認められた。遺構はこの沢の周囲から多く検出されている。

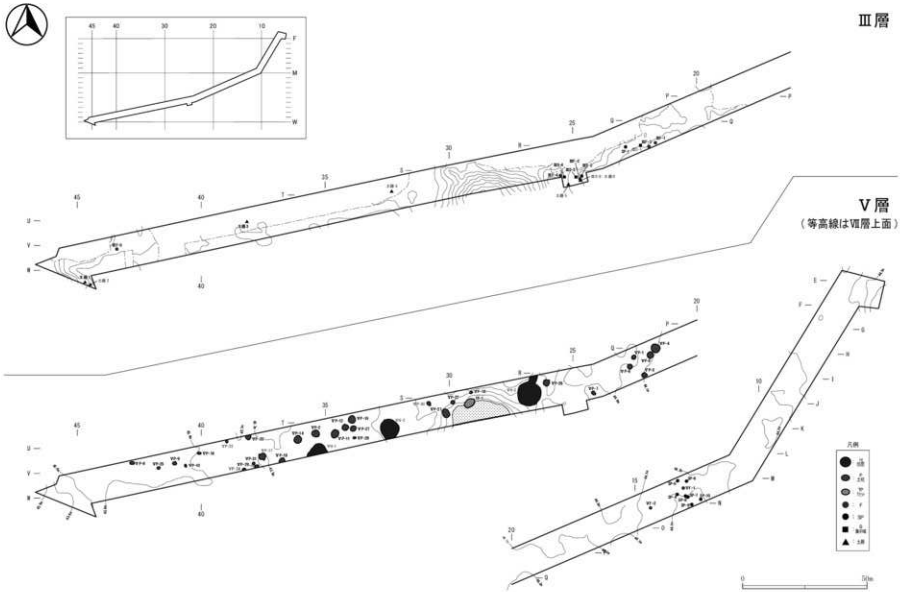
遺構と遺物

Ⅲ層で検出された遺構は、焼土７か所、遺物集中５か所、土器集中４か所等である。土器集中には擦文文化後期と、続縄文時代北大Ⅰ式期のものがある。遺物集中は、Ⅱ層：樽前ｂテフラ（Ta-b：1667年）直下のアイヌ文化期とみられるものもあり、ⅢS-2からは刀の切先が出土している。焼土のうちⅢF-1・2としたものは北東-南西方向に長軸が並んでいることから、柱穴らしき痕跡は１か所のみであったが、平地住居の一部とみられる。検出層位から擦文文化後期の可能性が高い。

Ⅴ層で検出された遺構は、竪穴住居跡４軒、土坑31基、焼土２か所、小柱穴９基等である。

竪穴住居跡VH-2は、前述した沢の右岸に位置する。平面形は4.00×3.58ｍの楕円形で検出面からの深さは1.0ｍ。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は下半が樽前ｄテフラ（Ta-d：約7,000年前）起源の軽石が多く混じる土で、中位に砂層が堆積する。この砂層は繰り返し踏まれたかのように極めて硬くしまっている。床面からは石刃状の黒曜石製縦長剥片が出土している。周囲で早期後半の土器が多く出土しており、当該期の住居と想定される。土坑VP-15は住居VH-2から西に５ｍの距離にある。検出面で前期前半綱文式土器が出土している。平面形は径1.54ｍの円形で、深さは0.76ｍ。覆土は埋め戻されており、土坑墓の可能性がある。南西に連なるVP-11・12の２基も類似した平面形と堆積状況であり、これらは早期後半から前期のものと推定される。土坑VP-1・3～6の５基の土坑は、上記沢の東側にあたるQ・R21～22グリッド、約７ｍ四方の範囲にまとまっている。平面形はほぼ円形を呈するが、規模は直径0.96ｍ（VP-1）から1.86ｍ（VP-4）までばらつきがある。いずれの土坑も出土遺物は希薄である。これらは形状と覆土の堆積状況から縄文時代晩期のものとみられるが、堆積状況から二つに区分できる。覆土は５基ともに樽前ｄテフラの軽石が混じる埋め戻しを主とする堆積であるが、VP-5・6とした２基は攪乱された樽前ｃテフラ（Ta-c：約2,500年前）を含んでおり、テフラ降下後の遺構であることがわかる。残る３基は降下以前の土坑とみられる。重複せずに近接し、形状も類似していることから、縄文時代晩期の樽前ｃテフラ降下前後の時期に構築されたと考えられる。

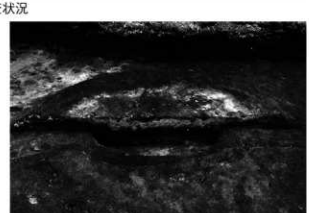
遺物は未集計であるが、コンテナ25箱分が出土している。土器は縄文時代早期後半東釧路Ⅳ式、前期前半の綱文式、前期後半の円筒下層式、中期前半、中期中葉の柏木川式、中期後半の北筒式、後期前葉の余市式、後期中葉の蝦淵式、後期後葉の堂林式、晩期前葉から後葉、および続縄文時代の北大Ⅰ式、擦文文化後期の土器が認められる。数量は多くないが早期後半以降のほぼ連続した時期の遺物が出土している。石器等は各時期の石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー等の剥片石器、棒状礫の中心軸上に明瞭な使用痕がある「くぼみ石」、断面が三角形を呈し、稜を擦った「すり石」等の礫石器等が出土している。そのほかには被熱した砂岩礫とメノウ質のフレイクが多い。



遺構位置図

調査状況

土器集中１（擦文文化後期）

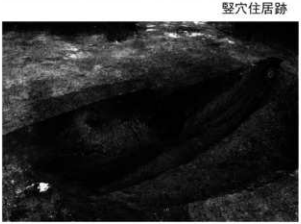


焼土　ⅢF－１　土層断面

土器集中６（北大Ⅰ式）

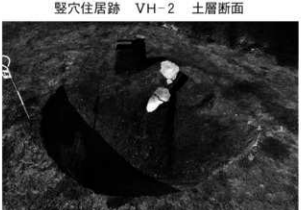
遺物集中　ⅢS－２

竪穴住居跡　VH-2　全景



竪穴住居跡　VH-2　土層断面

竪穴住居跡　VH-3　全景



土坑　VP-15　土層断面

晩期土坑群

知内町　湯の里２遺跡（B-04-18）

事 業 名：北海道新幹線建設事業地区における埋蔵文化財包蔵地の発掘調査及びそれに関連する業務
委 託 者：独立行政法人　鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局
所 在 地：上磯郡知内町字湯ノ里66番地２
調査面積：84㎡
調査期間：平成28年５月９日～６月３日
調 査 員：酒井秀治、吉田裕吏洋

調査の概要

遺跡は湯の里知内信号場・道の駅しりうちから南へ約500ｍ、知内川の支流である出石川左岸の舌状台地先端部の平坦地に立地する。遺跡の広がりは、当初標高37～44ｍの舌状台地の先端付近約20,000㎡と推定されていたが、昭和58年にJR津軽海峡線建設工事に伴い、中央やや先端寄りの区域1,661㎡の発掘調査が行われた。その結果、今回調査を行う先端部分が島状に残される状態になっていた。昭和58年の調査では竪穴住居跡３軒、土坑３基、石囲炉１か所、焼土27か所が検出されている。遺物は、縄文時代前期から晩期の土器17,270点、石器等20,625点の計37,895点が出土した。土器は、特に前期後半の円筒土器下層ｃ・ｄ式が多く出土し、晩期後葉の聖山Ⅰ・Ⅱ式なども出土している。石器は、たたき石･すり石などの礫石器類が多く、頁岩製のスクレイパーやつまみ付きナイフなども出土している。舌状台地の後背地には、大学遺跡などの縄文時代前期から後期の遺跡が分布しており、湯の里２遺跡もこれらの遺跡群の一部と考えられる。知内町で発掘調査が行われるのは、昭和60年の湯の里３遺跡以来となる。

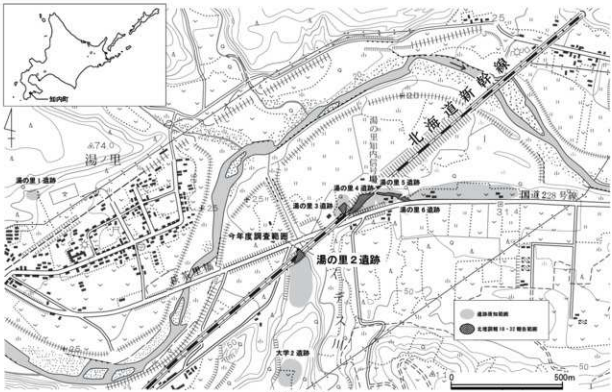
今回の調査範囲は、北海道新幹線と国道228号線に挟まれた旧舌状台地の先端部分になる。昭和58年のJR津軽海峡線建設工事によって北西側に取り残された場所で、面積は84㎡、標高は37～38ｍである。調査前は立木のある笹原であった。

土層は、基本的に昭和58年度調査時と同様である。Ⅰ層：表土、Ⅱ層：テフラ、Ⅲ層：黒褐色土、Ⅳ層：黒褐色～褐色土（漸移層）、Ⅴ層：褐色土（ローム）、Ⅵ層：段丘礫層である。主な遺物包含層は、Ⅲ層とⅣ層である。

遺構と遺物

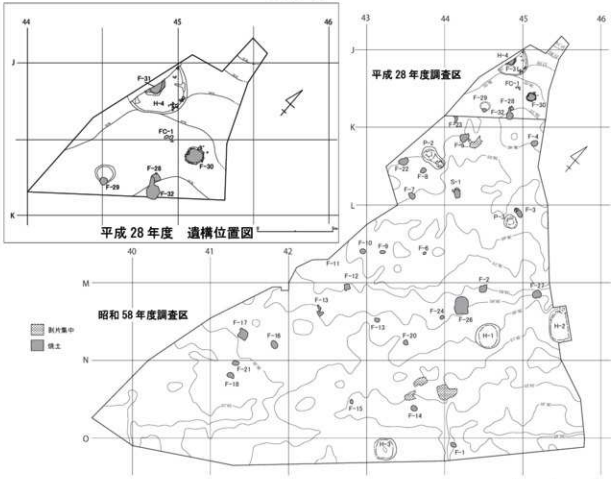
今回の調査では竪穴住居跡１軒、石囲炉１か所、焼土４か所、剥片集中１か所を検出した。竪穴住居跡（H-4）の平面形は直径４ｍほどの円形とみられるが、崩落によって西側半分が失われている。時期は縄文時代前期後半と考えられる。石囲炉（F-30）は円形の掘り込みの壁面に礫石器・礫・礫片12点で囲い、埋め戻して使用し、その内側に焼土が形成されている。焼土（F-31）はH-4の覆土から床面を掘り込んで構築されている。時期は縄文時代前期後半以降と考えられる。

遺物は土器2,725点、石器等1,289点、合計4,014点が出土した。土器は、縄文時代前期後半の円筒土器下層ｃ・ｄ式が多く出土し、中期初頭の土器も少量出土している。剥片石器ではスクレイパーやつまみ付きナイフなど、礫石器ではたたき石や扁平打製石器などが出土している。土製品ではⅡ群ｂ類土器片を使用して方形に整形した擦切土器片が出土している。



遺跡位置図

平成 28 年度　遺構位置図



昭和 58 年度・平成 28 年度　遺構位置図

調査区現況

調査状況

調査状況

調査状況

竪穴住居跡　H－4　土層断面

竪穴住居跡　H－4　完掘

石囲炉　F－30　断面

石囲炉　F－30　完掘

木古内町（きこないちょう）　札苅（さつかり）7遺跡（B-05-50）

事　業　名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（泉沢6遺跡外）

委　託　者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所　在　地：上磯郡木古内町字札苅576－11、576－13、578－11、411－2、412－2

調査面積：1,809㎡

調査期間：平成28年6月21日～10月14日

調　査　員：袖岡淳子、芝田直人、吉田裕吏洋

調査の概要

遺跡は道南いさりび鉄道札苅駅より北へ約400mに位置し、海岸に沿う低位の海岸段丘と後背の丘陵地形との変換点に立地している。沢を挟み東側は平成23年度に調査した札苅6遺跡に隣接し、南西へ約550m海側には北海道における亀ヶ岡文化の墳墓が調査された遺跡として知られる札苅遺跡がある。

調査は平成25年度からの継続で、第4次となる。過年度の調査で、縄文時代中期前半から後期後葉の竪穴住居跡27軒、土坑202基、小土坑13基、焼土28か所、剥片集中6か所、礫集中1か所、遺物集中1か所、埋設土器1か所、盛土遺構3か所が検出され、土器・石器等が約18万点出土している。

今年度の調査範囲は、平成26・27年度調査範囲に隣接するA地区南東部（1,403㎡）、および平成25年度調査範囲に隣接するB地区南西部（406㎡）である。A地区は、主に北側の丘陵から流下する沢に開析された標高16m前後の氾濫原である。南東方向へ下る二筋の深い沢は、札苅6遺跡側の別筋の沢と合流し、遺跡南側で平坦な低湿部を形成する。B地区も南東へ下る沢地形の内部である。

基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：暗赤褐色土、Ⅳ層：黒褐色～暗褐色土、Ⅴ層：漸移層、Ⅵ層：黄褐色ローム質土～凝灰岩礫層である。標高18～20m付近は丘陵と段丘の境界で、Ⅳ層～Ⅵ層上位まで凝灰岩礫を多く含む崖錐堆積の暗褐色土となり、層界は不明瞭である。遺構の覆土上位や低位の氾濫原では、Ⅱ層中に駒ヶ岳dテラフ（Ko-d：1640年）、白頭山－苫小牧テラフ（B-Tm：10世紀）の堆積が見られる。また、沢地形の内部はⅡ層以下に透水層を挟む厚い砂礫層が堆積している。

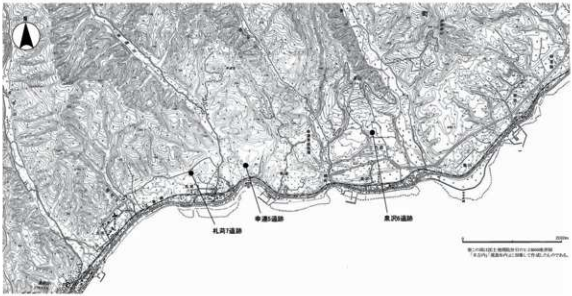
遺構と遺物

A地区で土器集中3か所、土坑1基、焼土6か所を検出した。B地区では遺構は検出されなかった。

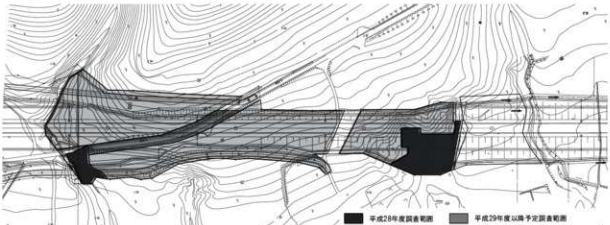
土器集中は数型式にわたる土器が集積したもので、沢地形両岸の氾濫原でⅡ層下位に形成されている。砂利層や黄褐色土ブロックを間層として大きく3層に分けられる。上位から、①上層：層厚は5cm以下で、縄文時代晩期中葉の遺物が出土、②下層：層厚10～20cmで、同晩期前葉の遺物が出土、③最下層：層厚10cm前後で、同後期後葉から晩期初頭の遺物が出土、である。上層の遺物はそれぞれの土器集中の標高の高い部分（斜面上位）からやや疎らに出土しており、より沢筋に近い標高の低い部分（斜面下位）ではみられない。一方、下層の遺物は土器集中全体から出土するが、標高が低いほど濃密である。また、最下層の遺物は土器集中1の南半のごく狭い範囲に限られる。遺物は土器が大半を占め、石器類は少ない。土器は細かな破片が多いが、鉢あるいは深鉢形土器の破片が扇状に、また壺形土器が正立で潰れた状態で出土しているものもある。層序と出土遺物から、これらの土器集中は縄文時代後期後葉から同晩期中葉にかけて断続的に形成されたと推測される。

土坑・焼土は、主に南側に突き出た段丘上の平坦面に分布している。時期の明瞭な遺物を伴うものは少ないが、周辺の包含層の遺物出土状況から、縄文時代中期後半から後期前葉に属すると考えられる。

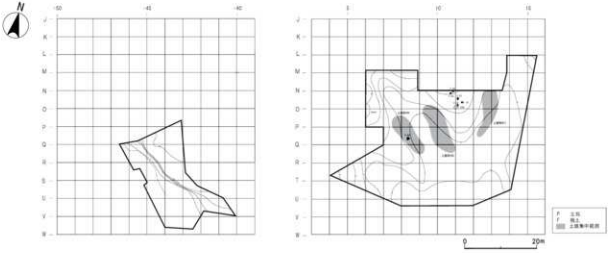
遺物は縄文時代前期後半から晩期中葉のものが全体で約45万点出土した。土器・石器のほか、土偶、石棒、石刀、石冠、環状石製品などがみられる。



遺跡位置図



調査範囲と周辺の地形



遺構位置図

図Ⅰ-2　大平遺跡　調査区位置図

調査区全景

土器集中１（左）・土器集中２（右）

土器集中３

土器集中１　石製品出土状況

土器集中１

木古内町（きこないちょう）　幸連（こうれん）4遺跡（B-05-60）

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（泉沢6遺跡外）
委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
所 在 地：木古内町字幸連116－2、116－13、116－14、117－5、117－6
調査面積：2,277㎡
調査期間：平成28年5月9日～10月28日
調 査 員：皆川洋一、鈴木宏行、直江康雄

調査の概要

遺跡は木古内駅から北東に約5km、標高20～28mの海岸段丘上に立地する。調査は昨年度に続き2年目である。調査区は沢を隔ててA～C地区に分かれ、いずれも北東から南西に伸びる舌状の地形である。今年度はC地区の北東部の工事用道路に係る範囲をD地区と呼称した。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色～茶褐色土、Ⅲ層：黒褐色土、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色土で、大型遺構の覆土上位のⅡ層中には駒ヶ岳dテラフ（Ko-d：1640年）と白頭山-苫小牧テラフ（B-Tm：10世紀）とみられる火山灰層が確認された。Ⅲ層は地区で色調が異なり、B地区ではC・D地区に比べ黒色の度合いが弱い。C・D地区ではⅢ層中に人為的な盛土層である厚さ20～60cmの黄褐色～褐色粘質土が部分的に分布する。遺物は主にⅢ層と盛土層から出土している。

遺構と遺物

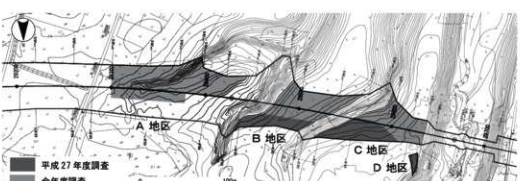
遺構は竪穴住居跡18軒、土坑60基、焼土10か所、フレイク集中17か所、黒曜石原石の集中を含む礫集中3か所、盛土層の広がりを検出した。また、D地区西側の段丘縁辺部ではC地区から連続する廃棄場とみられる土器・石器の集中域を確認した。

B地区の竪穴住居跡は、直径2～3mほどの浅い皿状で、縄文時代後期前葉の時期と考えられる。

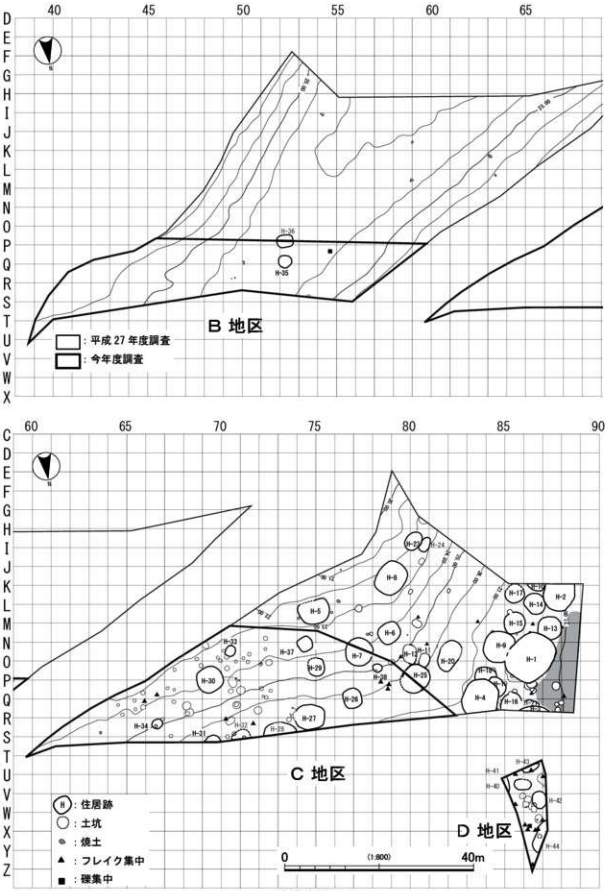
C地区の竪穴住居跡は、北側の標高26～27m区域には直径6m程、深さ1mを超える隅丸長方形のものと浅い皿状のものがあり、前者は縄文時代前期後半円筒土器下層d式期、後者は縄文時代後期前葉とみられる。標高22～25m区域には直径2m前後、4m前後、6m程のものがあり、縄文時代前期後半から中期後半の時期と考えられる。土坑は標高23～24mの沢に沿った範囲に比較的濃密に分布する。

D地区は調査区東・南側はそれぞれ隣接した大型住居跡の土手状の掘り上げ土（盛土層）に覆われ、その上下から竪穴住居跡が検出され、下位のものは円筒土器下層b式とみられる。盛土層下部から下位のⅢ層にかけては円筒土器下層b式を中心とした土器・石器の集中が検出された。

遺物は縄文時代前期後半・中期後半・後期前葉の土器・石器が約8万点出土した。本年度は一次整理を中心に作業を行い、報告は次年度以降である。



調査範囲と周辺の地形

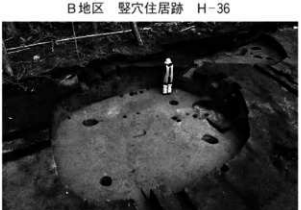


遺構位置図

C地区　遠景

B地区　竪穴住居跡　H-36

H-36　石囲炉

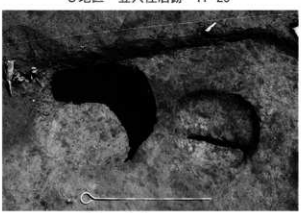


C地区　竪穴住居跡　H-27

H-27　覆土中土器出土状況

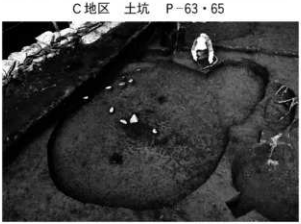
C地区　竪穴住居跡　H−29

H−29　床面付近　焼土・炭化材



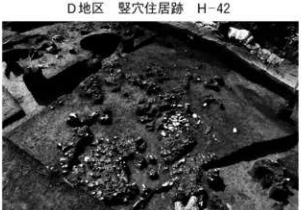
C地区　土坑　P−63・65

C地区　土坑　P−74



D地区　竪穴住居跡　H−42

H−2　覆土中土器出土状況



D地区　土器廃棄場

D地区　土層断面

木古内町　幸連５遺跡（B-05-62）

事　業　名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（泉沢６遺跡外）

委　託　者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所　在　地：上磯郡木古内町字幸連206－２

調査面積：61㎡

調査期間：平成28年10月21日～11月９日

調　査　員：土肥研晶、吉田裕吏洋

調査の概要

遺跡はJR木古内駅から北東約4.7km、現海岸線より約450ｍ内陸に位置し、幸連川左岸の標高20～25ｍほどの海岸段丘上に立地し、付近一帯は道南杉の植林地となっている。段丘東側は、小沢に深く開析された谷地形となっており、その対岸に幸連遺跡が所在する。

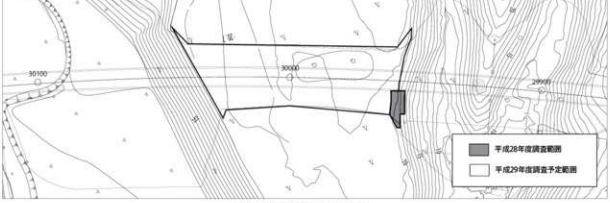
今年度は段丘の東側縁の狭小な範囲の発掘調査を行った。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：漸移層、Ⅳ層：黄褐色ロームで、Ⅱ層中に縄文時代前期から中期の盛土遺構が挟まる。また、盛土遺構上のⅡ層中には白頭山－苫小牧テフラ（B-Tm：10世紀）とみられる火山灰が残る部分もみられた。

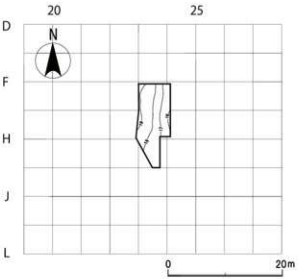
遺構と遺物

今年度の調査区は全面が盛土遺構で、その厚さは斜面では最大1.8ｍ、台地上の平坦面では層厚６cmほどであった。台地上の平坦面は、削平を受けている可能性があり、盛土遺構とみられる起伏は残るが、遺構とみられる窪みは確認できない。盛土は主に褐色土層で、中には焼土やⅣ層より下位の掘り上げ土とみられる土層の堆積も見られた。

今年度の調査区斜面の盛土下部は、縄文時代前期の円筒下層ｃ式期に堆積した暗赤褐色の盛土で、焼土粒や炭化材、土器片を多く含んでいた。また、その堆積は斜面を削り、浅い溝状の窪みをつくり、そこに遺物を廃棄したものと考えられる。またその溝に堆積する盛土は大きく２層に分かれる。前期の盛土上には、円筒上層式期に堆積した暗褐色の盛土層が重なり、段丘上の平坦部に続く。盛土上部からは、中期後半期のノダップⅡ式相当の破片が出土している。出土遺物は、縄文時代前期のトドホッケ式から縄文時代中期ノダップⅡ式までの土器40,136点、石器類23,424点、石製品４点の計63,564点である。



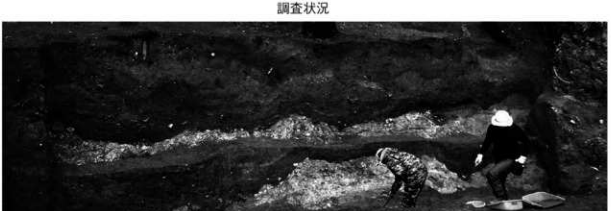
調査範囲と周辺の地形



調査区地形図

調査区南側　土層断面

調査状況



調査区南北方向　土層断面

木古内町（きこないちょう）　泉沢（いずみさわ）6遺跡（B-05-61）

事 業 名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（泉沢6遺跡外）

委 託 者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所 在 地：上磯郡木古内町字二乃岱4－181、4－191、4－194、4－204、4－207

調査面積：1,411㎡

調査期間：平成28年6月6日～6月21日

調 査 員：土肥研晶、吉田裕吏洋

調査の概要

遺跡は木古内町市街地の北東約6.8km、道南いさりび鉄道泉沢駅の北約900m、現海岸線より約1km内陸に位置し、東西を亀川と橋呉川に挟まれた標高30～40mほどの海岸段丘上に立地し、付近一帯は道南杉の植林地となっている。調査区の西側は橋呉川の最初の支流に開析され、その対岸には平成26年度に発掘調査を実施した泉沢5遺跡が所在する。

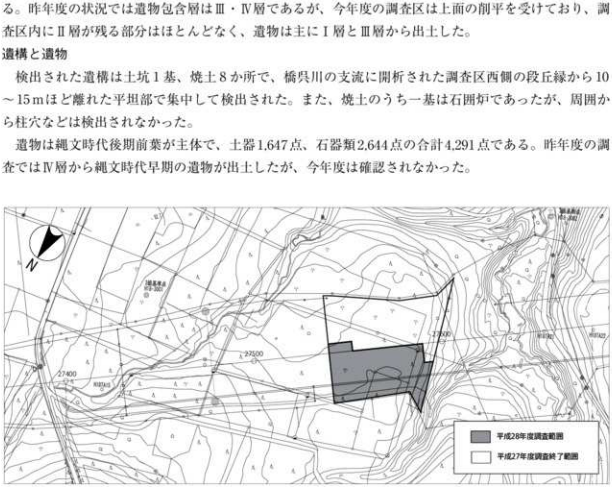
調査地点は、昨年度発掘調査を実施した区域の1,668㎡の北側隣接地で、本遺跡の調査面積は合わせて3,079㎡となる。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：暗～褐色土、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色ロームである。昨年度の状況では遺物包含層はⅢ・Ⅳ層であるが、今年度の調査区は上面の削平を受けており、調査区内にⅡ層が残る部分はほとんどなく、遺物は主にⅠ層とⅢ層から出土した。

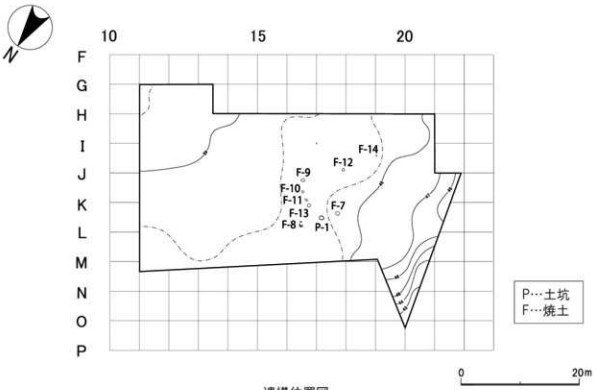
遺構と遺物

検出された遺構は土坑1基、焼土8か所で、橋呉川の支流に開析された調査区西側の段丘縁から10～15mほど離れた平坦部で集中して検出された。また、焼土のうち一基は石囲炉であったが、周囲から柱穴などは検出されなかった。

遺物は縄文時代後期前葉が主体で、土器1,647点、石器類2,644点の合計4,291点である。昨年度の調査ではⅣ層から縄文時代早期の遺物が出土したが、今年度は確認されなかった。



調査範囲と周辺の地形


N
10
15
20
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
F-14
F-12
F-9
F-10
F-11
F-13
F-8
F-7
P-1
P…土坑
F…焼土
0
20m

遺構位置図

調査状況

木古内町（きこないちょう）　釜谷（かまや）10遺跡（B-05-58）

事　業　名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査（泉沢６遺跡外）
委　託　者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
所　在　地：上磯郡木古内町字釜谷260－43番地
調査面積：1,430㎡
調査期間：平成28年５月12日～10月28日
調　査　員：皆川洋一、藤井　浩、直江康雄

調査の概要

遺跡は木古内町市街地の北東約10km、道南いさりび鉄道釜谷駅の北1.5kmに位置する。立地は海岸線から内陸に約２km入った標高80ｍ程の海岸段丘上にあたる。北東方向には沢を挟んで釜谷８遺跡があり、平成24・25年度の調査で、縄文時代早期中葉、後期前葉の遺構・遺物が検出されている。

調査区は道路幅に沿った全長約100ｍ、最大幅25ｍの細長い範囲で設定され、南東方向へ緩やかに下る尾根状の地形を北東から南西に横切る状況となった。調査区中央に位置する尾根の最も高い部分は標高約86ｍの平坦面で、その比高は北東の沢に面した斜面では約３ｍ、南西の沢側に面した斜面では約７ｍである。

基本土層はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：褐色土、Ⅳ層：明褐色土、Ⅴ層：褐色土（漸移層）、Ⅵ層：褐色ローム質土である。Ⅲ層の一部には灰褐色の駒ヶ岳ｄテフラ（Ko-d：1640年）や黄褐色の白頭山-苫小牧テフラ（B-Tm：10世紀）の堆積も見られた。また南北両側の斜面部ではⅤ層以下に礫層が見られた。遺物包含層はⅢ～Ⅴ層で、その大半はⅣ層から出土した。腐植の進まない褐色土の堆積が大部分のため、各層界には不明瞭なところも多い。

遺構と遺物

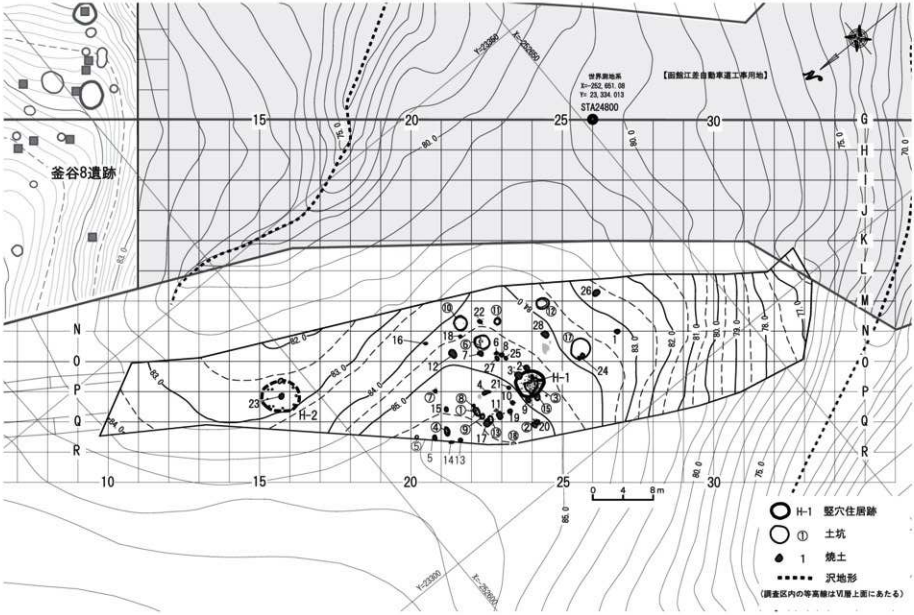
遺構は竪穴住居跡２軒、土坑16基、焼土28か所を確認した。そのほとんどが調査区中央部分に分布し、標高84～86ｍの緩やかな傾斜のある尾根上で確認された。

竪穴住居跡は、H-1が標高約85ｍの調査区中央部で、H-2は標高83ｍの調査区北東部の緩斜面上で確認された。いずれも縄文時代後期前葉のものと考えられる。H-1は直径約３ｍの円形で、深さ約30cmの皿状の掘り込みと柱穴４か所を検出した。

土坑は縄文時代中期後半から後期前葉のものと考えられるが、その規模と分布の特徴により二つの群に分けることができる。①直径１ｍ以下の小型土坑10基は標高85ｍ以上の尾根上の最も高い部分に分布する。覆土上面または上層に礫を伴うものが多く、中にはP-1のように長さ90cmに及ぶ大型礫が出土したものである。②直径２ｍ前後の大型土坑６基は、標高84ｍ前後で、前者よりもやや低い尾根上に分布する。深さ約１ｍの大型のフラスコ状のものが多く、その覆土中に土器や剥片、加工痕のある礫などの遺物を伴うものが多く見られた。特にP-9では覆土上面から石斧や剥片が出土し、覆土の堆積状態から土坑墓の可能性が考えられる。

焼土は調査区中央部全体に分布する。規模や形状などは様々であるが、時期は縄文時代中期から後期のものと考えられる。石囲炉も１基（F-12）確認された。

遺物は土器、石器、礫等が約50,000点出土した。出土遺物の分布は調査区中央部に集中し、北東斜面部にも及ぶが、南西斜面部には少ない。種別では土器が最も多く、約33,000点出土した。時期は縄文時代中期から晩期にわたり、特に涌元式など後期前葉の時期が多くみられた。石器は石鏃、石槍、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、台石・石皿などがある。



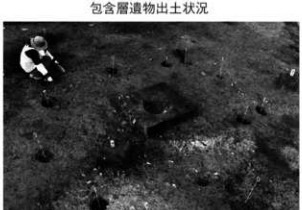
木古内町釜谷10遺跡遺構等位置図(1:500)

調査状況

南西側斜面部調査状況

包含層遺物出土状況

竪穴住居跡　H-1　完掘

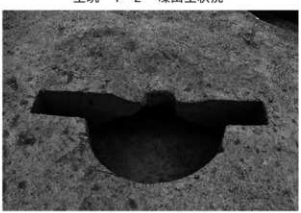


竪穴住居跡　H-2　完掘

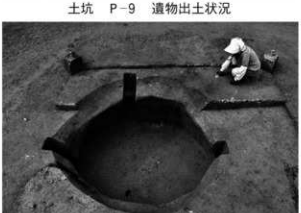
土坑　P-1　礫出土状況

土坑　P-2　礫出土状況

土坑　P-9　遺物出土状況



土坑　P-9　完掘



土坑　P-17　完掘

焼土　F-2　確認状況

北東側斜面部完掘

根室市（ねむろし）　別当賀一番沢川遺跡（べっとうがいちばんさわがわ）（N-01-154）

事　業　名：根室防雪事業改良等工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
委　託　者：国土交通省北海道開発局釧路開発建設部
所　在　地：根室市酪陽41－10
調査面積：2,000㎡
調査期間：平成28年7月21日～11月11日
調　査　員：笠原　興、阿部明義、広田良成、山中文雄

調査の概要

遺跡は根室市街地から南西約17kmに位置する。標高は約7～12mで、風連湖に注ぐ別当賀川右岸の緩斜面上に立地している。調査は昨年度から始まり、今年で2か年目となる。また、昭和60（1985）年に市道改良工事に伴い、根室市教育委員会により今年度調査区の南西側部分の発掘調査が行われ、縄文時代中期から後期の竪穴住居跡、土坑などの遺構、遺物が確認されている。

基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒褐色土、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：摩周テフラ（Ma－f～j：約7,600～7,700年前）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色ロームである。Ⅱ層中には樽前a降下テフラ（Ta－a：1739年）ないし駒ヶ岳c_2降下テフラ（Ko－c_2：1694年）とみられる灰白色火山灰が部分的に含まれる。遺物の主な包含層はⅡ層及びⅢ層で、Ⅴ層からも遺物が少量出土している。

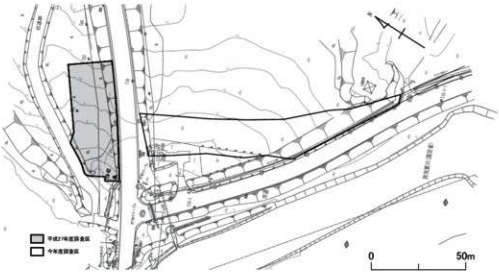
遺構と遺物

遺構はⅡ層で土器集中1か所、Ⅲ層で住居跡39軒、土坑36基、柱穴・杭穴32か所、焼土6か所、礫集中1か所を検出したが、Ⅴ層では検出していない。時期はⅡ層の遺構が続縄文時代、Ⅲ層の遺構の多くが縄文時代中期から後期である。Ⅲ層の遺構は調査区ほぼ全体に分布し、近接もしくは重複するものが多く、調査区際の遺構の多くは調査区外に続いている。遺構の分布や竪穴住居跡が多いことなどから、縄文時代中期から後期の集落跡と考えられ、その範囲は、昨年度及び昭和60年の調査区を含めて別当賀川に沿って広がるものと推定される。

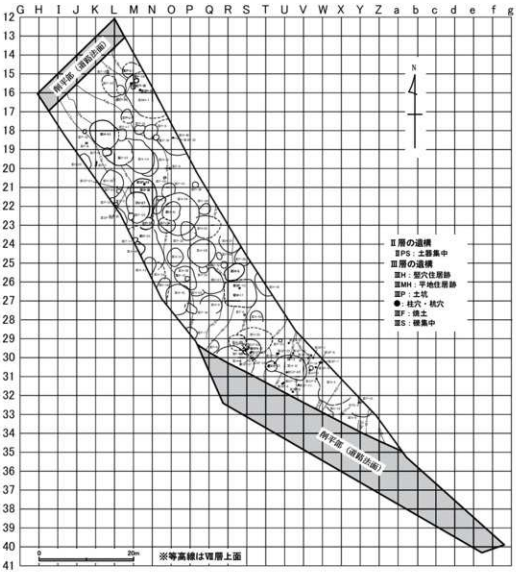
竪穴住居跡は、平面形が円形、楕円形を呈するものが多い。規模は、平面形の長軸が8m以上の大型から、4m前後の小型のものまであり、深さは1mを超えるものや、ごく浅い掘り込みのものさまざまである。大型の住居跡は掘り込みが深く、小型の住居跡は浅い傾向がみられるが、大型でも掘り込みが浅いものや、小型でも掘り込みが深いものもあり、その形態は多様である。北筒式土器の時期にみられる掘り込みがほとんどない、いわゆる平地住居跡と推測されるものも1軒（ⅢMH－1）ある。住居跡の中には焼土や炭化材を伴う焼失住居跡と考えられるものや、掘り方を埋めて床面を構築する形態もみられる。

土坑も縄文時代中期から後期の時期が多く、他に縄文時代晩期のものも少数みられる。大型の土坑の中には、規模・形状などの特徴が竪穴住居跡と類似し、区別が困難なものがある。また、縄文時代晩期と考えられる土坑の中には、人骨の痕跡が検出され土坑墓とみられるものもある。柱穴・杭穴、焼土などの遺構も、住居跡同様、縄文時代中期から後期の時期と考えられる。

遺物は土器約8,000点、石器等約19,000点で、合計点数は約27,000点である。また、近世アイヌ文化期とみられる鉄製品が数点出土した。土器の時期は縄文時代早期から晩期、続縄文時代などで、その中では縄文時代中期から後期の北筒式と晩期の緑ヶ岡式が多い。石器では石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパー、砥石などが多く出土している。


平成27年度調査区
今年度調査区
0
50m

調査範囲図

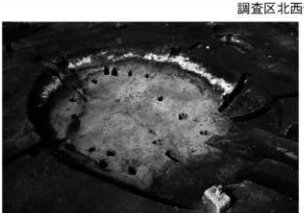

G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z a b c d e f g
12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41
南平部（須恵器面）
南平部（須恵器面）
N
Ⅱ層の遺構
ⅡPS：土器集中
Ⅲ層の遺構
ⅢH：竪穴住居跡
ⅢMH：平地住居跡
ⅢP：土坑
●：柱穴・杭穴
ⅢF：焼土
ⅢS：礫集中
0
20m
※等高線は Ⅲ層上面

遺構位置図

調査状況

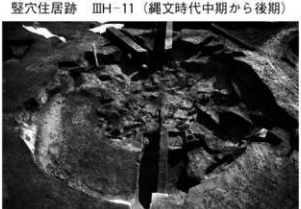
調査区南東側調査状況

調査区北西側調査状況

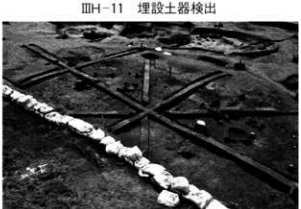


竪穴住居跡　ⅢH－11（縄文時代中期から後期）

ⅢH－11　埋設土器検出



竪穴住居跡　ⅢH－25（縄文時代中期から後期）



平地住居跡　ⅢMH－1（縄文時代中期から後期）

根室市　温根沼３遺跡（N-01-308）

事 業 名：根室道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局釧路開発建設部
所 在 地：根室市温根沼284－７
調査面積：2,610㎡
調査期間：平成28年５月12日～平成28年７月20日
調 査 員：笠原　興、広田良成、山中文雄

調査の概要

遺跡は根室市街から南西へ約９km、温根沼地区の海岸段丘上（標高23ｍ前後）から無名沢の源流部（標高16ｍ前後）にかけて広がる。遺跡名の「温根沼」は根室半島の付け根にある周囲約15kmの汽水湖で、その名称はアイヌ語の「onne-to：大きい・沼」に由来する。縄文時代前期の温根沼式押型文土器は、本遺跡から南西に約300ｍ離れた関江谷１竪穴群（標高12ｍ前後）を標式遺跡とする。

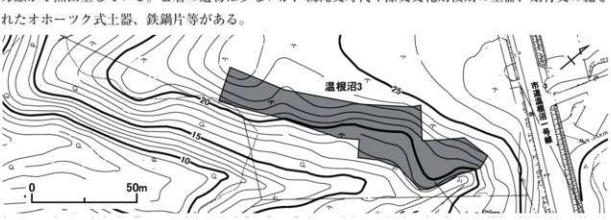
基本層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：暗褐色土（今回の調査区域ではⅢ層と分層できなかった）、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：摩周テフラ（Ma－ｆ～ｊ：約7,600～7,700年前）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色土で、遺物包含層はⅢ層とⅤ層である。前年度に行われた試掘調査の結果等により、調査区北東側の1,740㎡はⅢ層から、南西側の870㎡はⅤ層から調査を行った。

遺構と遺物

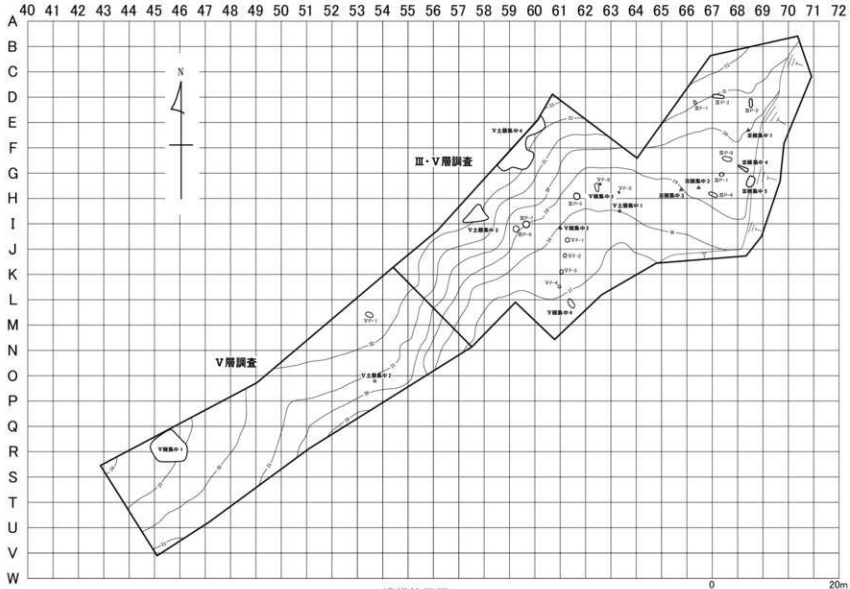
遺構はⅢ層で土坑８基（ⅢP－1～8）、焼土１か所（ⅢF－1）、礫集中５か所を検出した。これらの時期は判然としないが、周囲の出土遺物からみて、64ライン以東のものは擦文文化期後期またはオホーツク文化期の可能性がある。

Ⅴ層では、土坑墓１基（ⅤP－1）、焼土６か所（ⅤF－1～6）、土器集中４か所、礫集中４か所を検出した。いずれも縄文時代早期のものである。土坑墓（ⅤP－1）は平面形が長径約1.3ｍの楕円形で、坑底の西北隅から小型の土器１個体が出土した。斜面下の平坦部で検出した焼土４か所（ⅤF－1～4）は、約２ｍの間隔をあけて一列に並んでおり、その周囲では黒曜石の剝片石器が比較的多く出土した。土器集中１・３・４は東釧路Ⅲ式、２は同Ⅱ式の破片のまとまりである。礫集中１は、拳よりやや大きな礫・礫片約1,500個が５×６ｍの範囲にまとまっており、一部ではそれらが隙間なく密集していた。礫・礫片の大部分は被熱している。

遺物は土器約6,300点、石器等が約5,600点出土した。土器の大半はⅤ層から出土した縄文時代早期の東釧路Ⅱ式・同Ⅲ式である。Ⅴ層の石器では、石鏃、スクレイパー、彫刻刀形石器、砥石が多く、石刃鏃が１点出土している。Ⅲ層の遺物は少ないが、続縄文時代や擦文文化期後期の土器、貼付文の施されたオホーツク式土器、鉄鍋片等がある。



調査区周辺の地形


40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W
N
Ⅲ・Ⅴ層調査
Ⅴ層調査
Ⅴ土器集中1
Ⅴ土器集中2
Ⅴ土器集中3
Ⅴ土器集中4
Ⅴ土器集中5
Ⅴ土器集中6
Ⅴ土器集中7
Ⅴ土器集中8
Ⅴ土器集中9
Ⅴ土器集中10
Ⅴ土器集中11
Ⅴ土器集中12
Ⅴ土器集中13
Ⅴ土器集中14
Ⅴ土器集中15
Ⅴ土器集中16
Ⅴ土器集中17
Ⅴ土器集中18
Ⅴ土器集中19
Ⅴ土器集中20
Ⅴ土器集中21
Ⅴ土器集中22
Ⅴ土器集中23
Ⅴ土器集中24
Ⅴ土器集中25
Ⅴ土器集中26
Ⅴ土器集中27
Ⅴ土器集中28
Ⅴ土器集中29
Ⅴ土器集中30
Ⅴ土器集中31
Ⅴ土器集中32
Ⅴ土器集中33
Ⅴ土器集中34
Ⅴ土器集中35
Ⅴ土器集中36
Ⅴ土器集中37
Ⅴ土器集中38
Ⅴ土器集中39
Ⅴ土器集中40

調査状況

土坑　ⅢP－3

Ⅲ層礫集中３

Ⅲ層オホーツク式土器　出土状況

Ⅴ層礫集中１

土坑墓　ＶＰ－１

焼土列　ＶＦ－１～４

根室市　幌茂尻１遺跡（N-01-295）

事 業 名：根室道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：国土交通省北海道開発局釧路開発建設部
所 在 地：根室市幌茂尻140－７
調査面積：2,200㎡
調査期間：平成28年５月12日～７月20日
調 査 員：笠原　興、広田良成、山中文雄

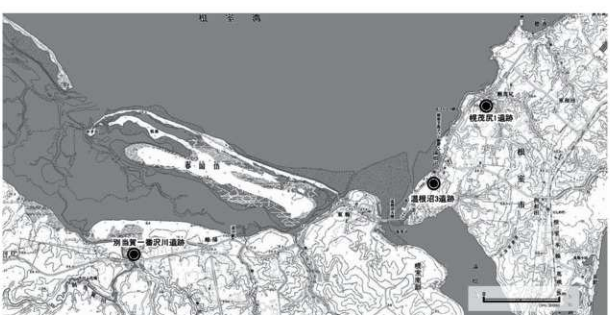
調査の概要

遺跡は根室市街地から南西約７kmに位置する。標高は約７～14ｍで、東西を沢状の地形に挟まれた舌状台地上に立地している。基本層序はⅠ層：表土、Ⅱ層：黒褐色土、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：摩周テフラ（Ma-ｆ～ｊ：約7,600～7,700年前）、Ⅴ層：黒色土、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：黄褐色ロームである。Ⅱ層中には樽前ａ降下テフラ（Ta-a：1739年）ないし駒ヶ岳 c_2 降下テフラ（Ko-c_2：1694年）とみられる灰白色火山灰が部分的に含まれる。遺物の主な包含層はⅢ層で、Ⅴ層からも遺物が少量出土している。調査区内の地形は東側の緩斜面部と西側の急斜面部からなり、西側の急斜面部についてはトレンチ調査を行ったところ遺物包含層がほぼ残存せず、急斜面部縁辺の遺物出土量も少なかったことから、トレンチ調査のみで調査終了とした。

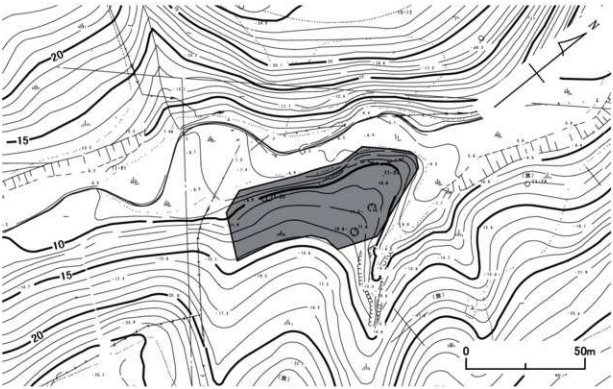
遺構と遺物

遺構は、Ⅲ層で竪穴住居跡３軒を検出したが、Ⅴ層では検出していない。竪穴住居跡は全て地表からくぼみの状態で確認した。竪穴住居跡内から土器は出土していないが、平面形が方形である点や深い窪みとして確認した点などから、時期は擦文文化期と考えられる。３軒共にカマドはなく、その内２軒からは炉跡及び礫集中を検出した。

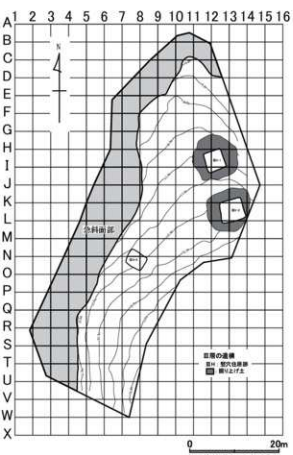
遺物は、土器約100点、石器等約1,700点、鉄製品２点で、合計約1,800点が出土した。土器は縄文時代後から晩期で、擦文文化期のものは出土していない。石器等では、剥片石器は石鏃、つまみ付きナイフなど、礫石器では磨製石斧、砥石などがみられる。



遺跡の位置　国土地理院発行の数値地図5000分の１（地図画像）『根室南部』『厚床』（平成17）を使用



調査区周辺の地形



遺構位置図

調査状況

竪穴住居跡　ⅢH－2　調査状況（擦文文化期）

下川町　上名寄８遺跡（F-21-070）

事 業 名：名寄川河道掘削工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

委 託 者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所 在 地：上川郡下川町上名寄11線河川敷

調査面積：850㎡

調査期間：平成28年９月14日～平成28年10月27日

調 査 員：笠原　興、冨永勝也

調査の概要

遺跡は下川町の市街地から西へ約10km、名寄川中流域の河岸段丘に位置し、舌状に張り出した地形となっている。標高は約117ｍ～125ｍで、名寄川との比高は約４ｍ～12ｍである。

遺跡周辺の地形は、これまでに行われた河川改修工事によって丘陵先端部が削られ、南側には堤防や用水路も作られ、更に旧名寄本線によって掘削もされている。

「名寄」の地名は、アイヌ語の「ナイ・オロ・プト」（川または沢の中・所の・川口）に由来し、天塩川と名寄川が合流する場所を示している。

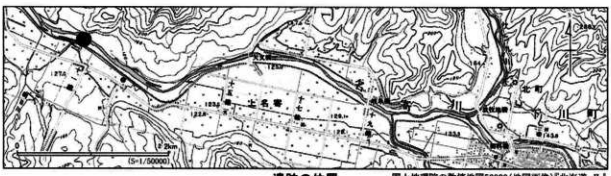
名寄川流域や、その支流の丘陵または段丘上には多くの遺跡が所在し、下川町では本遺跡を含め70か所の遺跡が登載されている。名寄川の下流域に位置する名寄市でも148か所の遺跡があり、市内の流域では低地部にも遺跡が確認されている。本遺跡が立地する丘陵部周辺には、上名寄２遺跡や上名寄７遺跡、朝日１遺跡、朝日２遺跡、朝日３遺跡等があり、旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が分布している。

「上名寄８遺跡」は、元々「上名寄チャシ跡」として登載されていた地点であったが、平成25年度に下川町教育委員会が実施した遺構確認調査の際に、当該地が旧石器時代から縄文時代の遺跡であることが確認されたために、「上名寄チャシ跡」とは分離して登載されることになった遺跡である。

調査は来年度も行う予定である。

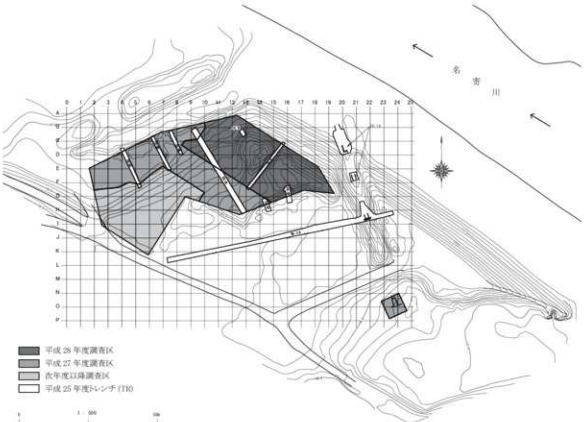
遺構と遺物

今年度の調査では、遺構は確認されていない。出土した遺物はすべて石器類である。黒曜石を石材にした有茎や基部に抉りのある石鏃、剥片や砕片、また、珪化岩製の削器や石核、縦長剥片等が出土した。黒曜石製石器と珪化岩製石器の出土割合はほぼ同じであるが、削器類では珪化岩製の石器が多い傾向がある。珪化岩の起源は堆積岩で、今回の調査で出土した珪化岩には、植物化石や白色のメノウ質部分を含むものがあり特徴的で、下川産であることが考えられる。



遺跡の位置

国土地理院の数値地図50000（地図画像）『北海道－Ⅱ』（平成17年発行）を使用



調査範囲と周辺の地形

調査区全景

新得町　屈足17遺跡（L-06-31）

事　業　名：道営農業農村整備事業新屈足地区用地内埋蔵文化財発掘調査
委　託　者：北海道十勝総合振興局
所　在　地：上川郡新得町字屈足784－6ほか
調査面積：900㎡
調査期間：平成28年5月12日～7月7日
調　査　員：冨永勝也、福井淳一

調査の概要

遺跡は新得市街地から東へ約9.5km、十勝川上流域左岸の標高約310mの美蔓台地上に位置する。遺跡の北西から南西方向へ約10kmにかけて標高差約100mにおよぶ落差の岩崖が連なる。岩崖は、固結または半固結した溶結凝灰岩が、十勝川の開析によって露出、浸食されたもので奇異な景観を生み出している。なお、溶結凝灰岩は約100万年前に十勝三股火山が破局噴火を起こした際の火砕流を由来とするものである。

幕末の安政5（1858）年、松浦武四郎は6回目の蝦夷地探検を敢行し、富良野地方から峠を越えてこの地を訪れ、「クッタルウシ」または「クツタラシ（イタドリの群生する処と解されているが、鹿追の語源「クテクウシ（鹿柵がある処）」との対の関係が考えられる）」という地名を書き残している。

武四郎はこの険峻な岩崖を見て感嘆し「アイヌ人はこの地を『カムイロキ（神様の座するところ。または熊の越年するところ）』と言えり、この風景実に筆紙に及ぶ処にあらず」と幕府に報告している。ほかにも、アイヌの人々は「ウエンシリ（険しい・悪いところ）」とも呼んでこの崖を恐れ、十勝川を挟んだ対岸から木幣（イナウ）を立てて祈りを捧げたという。風化した崖はもろく崩れやすいため、アイヌの人々は崩落の危険を感じて岩崖に登ることや近づくことを戒めてきたと推測される。

現在地元では、この遺跡南西部の絶壁を「27号ガンケ（崖）」と呼称している。遺跡は、ガンケの北側を開析する無名ノ沢の沢頭沿いに立地している。周辺の聞き取り調査では、このガンケ上「新屈足地区」は、昭和初期の農地解放により入植した当時は鬱蒼とした森林であり、足を踏み入れるために遺跡の南東部に当たる森林を燃やすとシカの骨が至る所に散乱している状況だった。また当時、鹿追町との境界付近にアイヌの女性が暮らしており、遺跡北側にある沢頭に日常の飲料水を汲みに来ていたという。

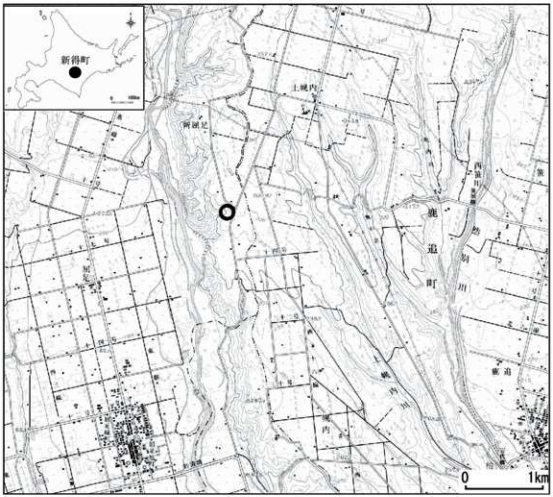
新得町は明治から大正期にかけて「屈足村」と呼称されており、昭和8年に新得町となってからは今回の調査が4番目の発掘事例となる。

遺跡の基本層序は上位から、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：テフラ（17世紀？）、Ⅲ層：黒色土、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：ローム層である。主な遺物包含層はⅢ層で、一部Ⅳ層からも遺物は出土している。H5区のⅤ層上面で、小沢頭を取り囲むようにシカとみられる動物の足跡を確認している。

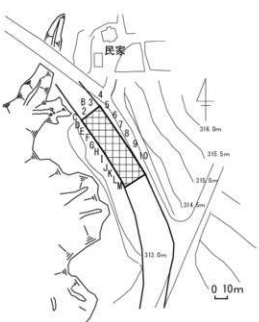
遺構と遺物

今年度の調査では、縄文時代早期から晩期にかけての土器・石器が出土している。小沢頭付近の調査区からは、縄文時代早期のテンネル・暁式、大楽毛式の土器片が9点出土した。この時期の石器として、断面三角形のすり石片と、擦り切り手法の有孔石斧が各1点出土している。

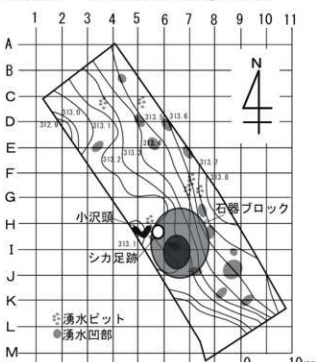
更に縄文時代中期から後期の北筒式の土器片が少量出土しており、石器は石槍片が49点の他、ポイントフレイクを主とする剥片がコンテナ2箱分出土している。小沢頭周辺に石器ブロックを形成しており、石槍片はⅠ6区から18点出土した。そのほか縄文時代晩期の土器片がわずかに出土した。



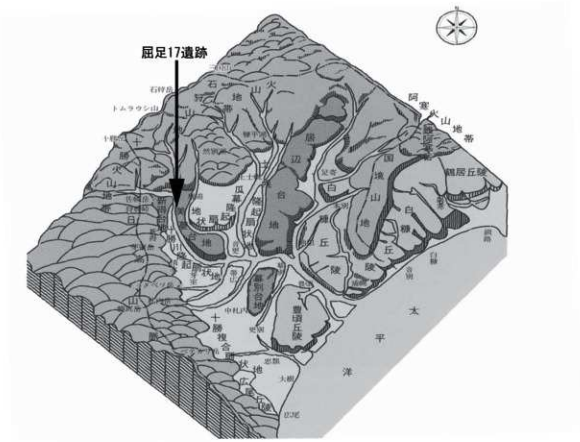
屈足 17 遺跡の位置（国土地理院昭和 59 年発行の 1：50000 地形図「新得」に加筆）



調査範囲と周辺の地形



石器ブロック・シカ足跡などの位置



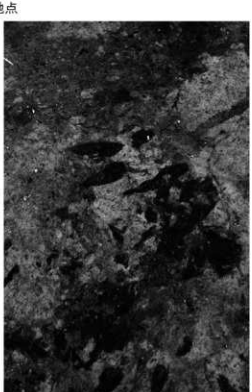
十勝平野の地形図

国土交通省北海道開発局監修2003『十勝川下流のあゆみ』（原図：岡崎由夫「十勝地方地形様式ダイヤグラム」）を改変

屈足17遺跡と「27号ガンケ」

土器出土状況と湧水地点

調査状況



縄文時代のシカ足跡

3　現地研修会の報告

平成28年９月１日（木）は網走市、２日（金）は北見市常呂・湧別町・遠軽町に場所を移動して、現地研修会を行った。

１日目、網走市での研修は北海道立埋蔵文化財センターの指定管理業務「市町村担当職員出前研修会」との合同開催である。今回の市町村担当職員出前研修会は、「遺跡・遺物の公開活用」シリーズのうち、網走市史跡モヨロ貝塚および北見市史跡常呂遺跡における発掘調査の歴史と成果、さらにその活用啓発の取り組みについてである。会場は北海道立北方民族博物館講堂である。

最初の講義は、当センター常務理事　長沼孝（研修１）による「北海道の歴史と道北（上川・宗谷・オホーツク）の文化財」で、①道北（オホーツク管内、上川管内、宗谷管内）の文化財等に関する数的概要、②天然記念物、③北海道の歴史（旧石器時代からアイヌ文化期まで）と道北の歴史的文化財、名勝、④建造物等の４項目について詳しく解説。

二講目は、長年にわたり網走市の発掘調査を主導し、オホーツク文化期のモヨロ貝塚およびモヨロ貝塚館の整備を担当された網走市立博物館長　米村衛氏（研修２）による「国指定史跡モヨロ貝塚の発掘調査と整備」。①モヨロ貝塚の発掘調査略史、②整備の基本構想、③整備にかかわる発掘調査の成果、④整備基本設計の策定、⑤モヨロ貝塚館の建設、⑥史跡の環境整備、⑦史跡での普及広報活動（体験講座・講演会・出土遺物の展示など）の７点について、わかりやすい紹介がなされた。

三講目は、北見市教育委員会　山田哲氏（研修３）による「国指定史跡常呂遺跡の発掘調査と整備」。①常呂川流域の遺跡群の概説、②史跡常呂遺跡の整備と課題の２点について、各遺跡の特徴および近接する遺跡群の関連性など、地元担当者ならではの緻密な調査及び考察が語られ、そこからみえてきた今後の課題についても示された。

「出前指定管理者業務研修会」の最後として、北海道立北方民族博物館　笹倉いる美氏（研修４）の解説で、北海道立北方民族博物館の展示等の見学を行った。当日は、北方民族に関する資料およびオホーツク文化に関する遺物などが展示された常設展示に加えて、考古学に関する特別展示「第31回特別展　北からの文化の波　北海道の旧石器からオホーツク文化まで」が開催中で、改めて北海道と大陸の関係について、理解を深めた。

１日目の最後は、モヨロ貝塚館へ移動し、米村氏の解説により、施設見学を行った。発掘調査から展示、公開、活用まで、講義で紹介された内容も含め、現地・現物を見学することができ、モヨロ貝塚やオホーツク文化に関する理解を深めることができた。

２日目の職員研修では、ところ遺跡の館、ところ埋蔵文化財センター、東京大学常呂資料陳列館を見学した。前日受講した山田氏の講義内容と関連させ、各人が興味関心をもつ事項について、理解を深めることができた。

続いて、道立センター業務である重要遺跡確認調査を行っている湧別町シブノツナイ竪穴群を見学した。当日は、測量業務の一部を委託している（株）シン技術コンサルによる、ドローンによる空中撮影、自動追尾型のトータルステーション、3D計測器などのデモンストレーションも行われ、最新の測量技術についての理解も深めることができた。

昼食後、湧別町郷土館、湧別町ふるさと館JRYを見学。特に郷土館では、湧別市川西遺跡の資料を特別に閲覧することができた。

遠軽町では、道指定有形文化財家庭学校礼拝堂の見学、さらに、同敷地内にある創立100年を記念して整備された博物館では、学校敷地内で発見された土器・石器などを実見する貴重な時間をもつことができた。

バスの車窓からは、国指定名勝眺望岩を眺めながら、遠軽町市街から白滝へ向かい、研修の最後として、遠軽町埋蔵文化財センターおよび同館１階にある遠軽町ジオパーク交流センターを見学した。国史跡「白滝遺跡群」および国指定重要文化財「白滝遺跡出土品」について、見識を深めるとともに、遠軽町のジオパークに関連する活動について学習した。

多忙な中、１日目の会場設定や講義・解説の対応をしていただいた米村・山田・笹倉各氏、また、２日目の見学説明などを行っていただきました各機関担当者の皆様に深く感謝いたします。

以下、研修会の日程を示す。

９月１日（木）当センター　集合　バス移動
北海道立北方民族博物館　講義・見学
モヨロ貝塚館　見学
北見市常呂　情報交換会・宿泊

９月２日（金）バス移動
ところ遺跡の館・ところ埋蔵文化財センター・東京大学常呂資料陳列館見学
湧別町シブノツナイ竪穴群見学
湧別町郷土館見学
湧別町ふるさと館JRY見学
道指定有形文化財家庭学校礼拝堂見学
国指定名勝眺望岩（車窓見学）
遠軽町埋蔵文化財センター・ジオパーク交流センター見学
当センター到着、解散

北海道立北方民族博物館

研修 1

研修 2

研修 3

研修 4

モヨロ貝塚館

ところ遺跡の館

東京大学常呂資料陳列館

湧別町郷土館

遠軽町家庭学校博物館

湧別町シブノツナイ竪穴群

4　協力活動及び研修（平成28年1月～12月）

（1）協力活動

ア　発掘現場見学

＊木古内町　札苅７遺跡

8月29日　函館開発建設部函館道路事務所インターンシップ研修

＊根室市　別当賀一番沢川遺跡

9月3日　史跡見学会「ねむろ遺跡発掘見学会（8名）

＊木古内町　釜谷10遺跡

10月5日　木古内町遺跡発掘調査現場見学（15名）

＊根室市　別当賀一番沢川遺跡

10月22日　釧路考古学研究会　遺跡見学（5名）

イ　委員会等の会議

＊全国埋蔵文化財法人連絡協議会

6月16日・17日　平成28年度総会（鹿児島県霧島市　中田・和田・三浦）

10月13日･14日　北海道・東北地区会議（福島県福島市　山田・小杉）

＊洞爺湖町教育委員会

8月9日・10日　国指定史跡入江・高砂貝塚保存整備委員会会議（洞爺湖町　長沼）

＊第3回北海道東部竪穴群調査懇談会

12月13日（札幌市　長沼・田口）

ウ　調査指導及び講演会等の講師

＊北海道、北の縄文道民会議

7月10日『縄文夏まつり』「縄文時代の漁民の知恵を探る－銛漁と釣漁」講師（札幌市　福井）

「勾玉（まがたま）体験教室」講師（札幌市　倉橋・坂本）

＊古代貝塚データベース打ち合わせ

7月16日・17日（岩手県盛岡市　福井）

＊千歳市教育委員会

8月6日　平成28年度文化財普及啓発事業体験学習会『石器をつくろう！』講師（千歳市　直江）

＊福島町教育委員会

10月13日　縄文文化講演会講師（福島町　長沼）

＊森町教育委員会

10月20日･21日　町内遺跡発掘調査及び今後の計画指導（森町　長沼）

＊木古内町教育委員会

10月22日　木古内町郷土学習講座講師（木古内町　土肥）

＊せたな町教育委員会

11月26日　町内文化財保護審議委員研修事業講師（せたな町　笠原）

＊南北海道考古学情報交換会

12月3日・4日　南北海道考古学情報交換会（松前町　鈴木宏行・酒井・直江）

＊北海道立埋蔵文化財センター

12月8日・9日　北海道文化財担当職員等研修会

講師　（江別市　越田賢一郎・長沼・三浦）

＊北海道考古学会

12月10日　平成28年度遺跡調査報告会　（札幌市　福井・愛場・菊池・広田）

＊丘珠縄文遺跡フォーラム2016
12月17日　「札幌・縄文の再発見！」講師　（札幌市　鈴木　信）
～丘珠縄文遺跡と江別市対雁２遺跡から見えてくる新たな縄文の姿～

エ　東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査のための職員の出向（平成25年度から）
出 向 先　公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
出向期間　平成28年４月１日～平成28年７月31日
出 向 者　阿部　明義
出向期間　平成28年７月25日～平成29年３月31日
出 向 者　大泰司　統

（２）研修

ア　外部研修

＊文化庁
２月３日～５日　平成27年度第２回埋蔵文化財担当職員等講習会
（鹿児島県鹿児島市ほか　笠原・立田・小笠原）
９月７日～９日　平成28年度第１回埋蔵文化財担当職員等講習会
（秋田県秋田市　菅野・中村・佐藤）
９月29日・30日　平成28年度研修会（山形県山形市　小杉・小笠原・酒井）

＊北海道教育委員会
２月10日　平成27年度アイヌ文化財専門職員等研修会
（札幌市　三浦・鎌田・田口・藤井・芝田・直江）

イ　内部研修

＊平成28年度現地研修会
９月１日・２日　（網走市・北見市・湧別町・遠軽町　13名）

＊平成28年度発掘調査報告会
11月30日（センター研修室）

5　平成28年度刊行報告書

第327集『北斗市　館野６遺跡（２）』
規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第328集『木古内町　大平遺跡（３）』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第329集『木古内町　大平遺跡（４）』
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第330集『木古内町　泉沢５遺跡』
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第331集『木古内町　大平４遺跡（３）』
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第332集『木古内町　亀川５遺跡』
高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第333集『福島町　館崎遺跡』
北海道新幹線建設事業のうち吉岡信通機器室の増設工事埋蔵文化財調査報告書

第334集『知内町　湯の里２遺跡（２）』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第335集『厚真町　上幌内３遺跡』
厚幌ダム建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書

第336集『厚真町　厚幌１遺跡・幌内６遺跡・幌内７遺跡』
国営土地改良事業勇払東部（二期）地区厚幌導水路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第337集『長沼町　幌内Ｋ遺跡・レブントン川左岸遺跡・レブントン川右岸遺跡・南９号線遺跡』
道央圏連絡道路泉郷道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書

第338集『厚真町　オコッコ１遺跡（１）』
厚真川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第339集『新得町　屈足17遺跡』
道営農業農村整備事業新屈足地区用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

第340集『根室市　幌茂尻１遺跡』
一般国道44号根室道路建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

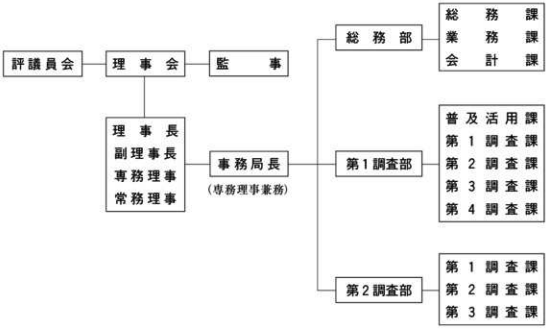
6　組織・機構

役　　員（平成28年6月24日現在）

理事長	越田賢一郎
副理事長	中田　仁
専務理事	山田寿雄
常務理事	長沼　孝
理事	臼杵　勲
理事	片岡　晃
理事	菊池俊彦
理事	坂本　均
理事	関口　明
理事	本田優子
理事	山田悟郎
監事	佐藤一夫
監事	松本昭一

評議員（平成28年6月24日現在）

評議員	遠藤龍畝
評議員	川上　淳
評議員	木村方一
評議員	昌子守彦
評議員	千葉英一
評議員	鶴丸俊明
評議員	西　幸隆
評議員	古谷雅幸
評議員	巻渕雄二
評議員	三原和廣
評議員	山田　享
評議員	横山健彦



7　職　員（平成28年6月26日現在）

事務局長（兼務）　山田寿雄

総務部

総務部	長	和田基興
総務課	長	小杉　充
主任		葛西宏昭
参与		前田　博
参与		作田千秋
会計課	長	中村貴志
主任		礫田千秋
業務課	長	菅野　聡
主査		小笠原　学
主査		今本宏信
参与		佐藤龍夫
参与		立野賢次
参与		三浦忠善

第1調査部

第1調査部長（兼務）		長沼　孝
普及活用課	長	田口　尚
主査		倉橋直孝
主査		坂本尚史
主任		藤本昌子
第1調査課	長	中山昭大
主査		柳瀬由佳
主査		酒井秀治
第2調査課	長	鈴木　信
主査		菊池慈人
主査		越田雅司
主査		影浦　覚
主査		冨永勝也
主査		福井淳一
第3調査課	長	土肥研晶
主査		袖岡淳子
主査		芝田直人
主査		吉田裕史洋
第4調査課	長	皆川洋一
主査		藤井　浩
主査		鈴木宏行
主査		大泰司　統

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターへ出向　平成28年7月25日～平成29年3月31日

主査		直江康雄

第2調査部

第2調査部	長	三浦正人
第1調査課	長	鎌田　望
主査		愛場和人
主査		末光正卓
主査		佐藤　剛
主任		熊谷仁志
第2調査課	長	笠原　興
主査		阿部明義

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターへ出向　平成28年4月1日～平成28年7月31日

主査		広田良成
主査		山中文雄
第3調査課	長	村田　大
主査		新家水奈
主査		立田　理

調 査 年 報 29

平成28年度

平成29年3月15日発行

編集・発行　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL　011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL http://www.domaibun.or.jp
E-mail mail@domaibun.or.jp
印　　刷　社会福祉法人 北海道リハビリー
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL　011-375-2116㈹・FAX 011-375-2115